

令和4年度 第2次菊川市総合計画進捗状況報告書

# 政策評価シート

菊川市

<b>目次</b>	<b>基本目標1 子どもがいきいき育つまち 【子育て・教育】</b>	<b>1</b>
	政策1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	1
	政策2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	2
	政策3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	3
	政策4 子どもの「生きる力」を育つまちづくり	4
	政策5 人を育み、若者を育てるまちづくり	5
	<b>基本目標2 健康で元気に暮らせるまち 【保健・福祉・医療・社会教育】</b>	<b>6</b>
	政策1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	6
	政策2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	7
	政策3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	8
	政策4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	9
	政策5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	10
	政策6 生涯にわたり学べるまちづくり	11
	政策7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	12
	政策8 スポーツが盛んなまちづくり	13
	<b>基本目標3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち 【産業】</b>	<b>14</b>
	政策1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	14
	政策2 活力と魅力のある茶のまちづくり	15
	政策3 商工業が活気あるまちづくり	16
	政策4 人が訪れるまちづくり	17
	政策5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	18
	<b>基本目標4 快適な環境で安心して暮らせるまち 【防災・環境・社会資本整備】</b>	<b>19</b>
	政策1 防災力を高めるまちづくり	19
	政策2 交通事故・犯罪のないまちづくり	20
	政策3 消防力を高めるまちづくり	21
	政策4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	22
	政策5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	23
	政策6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	24
	<b>基本目標5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち 【コミュニティ・自助・共助・公助】</b>	<b>25</b>
	政策1 市民と行政との協働によるまちづくり	25
	政策2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	26
	政策3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	27
	政策4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	28

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち										作成部署
R4	政策	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり										こども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	5	16				
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	政策事業費(予算)	3,072,972	4,122,034	3,139,990	3,201,716	政策費増減額	1,049,062	△ 982,044	61,726			
	政策費/全体費					比較	134%	76%	102%			
	政策事業費(決算)	2,990,573	4,035,978	3,044,464		一般財源増減額	△ 12,073	52,553	7,673			
	政策費/全体費				比較	99%	105%	101%				
	コスト分析と課題	こども医療費助成は、一般財源に占める割合が大きいが、令和5年度から無料化を実施することにより、さらに一般財源が増額することとなる。これらの政策対応、待機児童対策、子育て環境の充実のため、国費や県費を有効に活用するとともに、利用者ニーズや社会情勢に合わせ、事業を見直していく必要がある。										

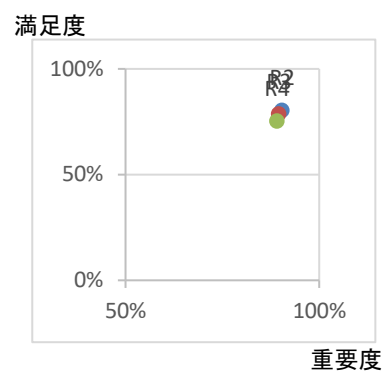
指標評価	総合計画										行政評価
	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「子育てしやすいまち」と思う市民の割合	%	80.2	85.0	80.4	78.7	75.2	83.4	90.2%	現未	B
	関連する施策										
	幼稚園に行くことを楽しみにしている園児の割合	%	99.2	100.0	99.6	100.0	100.0	99.7	100.3%	S	B
	関連する施策										
	幼児施設入所待機児童数	人	1	0	0	0	0	0	100.0%	S	B
	関連する施策										
	子育て支援センター利用者数	人	62,520	67,700	29,734	27,422	32,632	65,973	49.5%	現未	E
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	幼児施設の入所待機児童数は、5年連続して「国定義待機児童数0人」となったが、放課後児童クラブの利用待機児童と同様に、すべての保護者のニーズに答えられていない状況であり、保育ニーズに応じた幼児施設の整備等を検証する必要がある。児童館・子育て支援センターの利用は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場者数や利用時間を制限していたが、特に休館することもなかったため、前年度より増加することができた。保護者の就労形態の多様化や子育て環境が変化中、安心して子育てができるよう努める必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	
	1 教育・保育サービスの充実に取り組みます	こども政策課	S		A	拡充	拡充	①		
	2 幼児教育・保育の質の向上を目指します	こども政策課	現未		A	拡充	維持	①		
3 安心できる子育て環境を整備します	こども政策課、子育て応援課	S		A	拡充	拡充	①			
4 子育て世代を応援します	子育て応援課	A		A	維持	拡充	①	拡充化○		

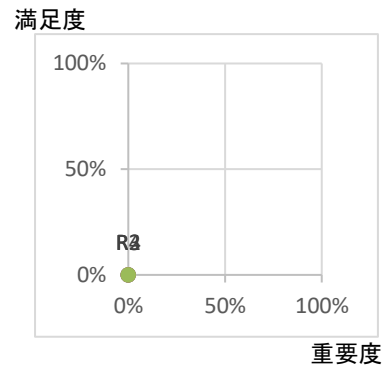
市民アンケート結果

総合評価

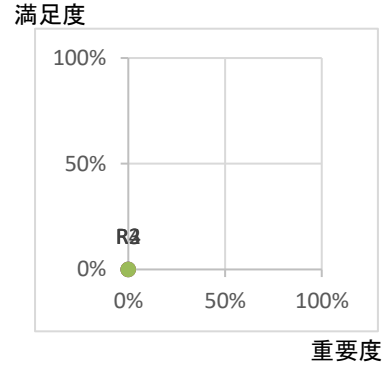
設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度	80.2%	85.0%	80.4%	78.7%	75.2%	そう思う(満足)	10.5%	どちらかといえば思う	64.7%	
			94.6%	92.6%	88.5%	どちらかといえば思わない	16.8%	そう思わない(不満)	3.5%	
重要度			90.4%	89.6%	89.1%	重要	51.4%	どちらかといえば重要	37.7%	
						重要ではない	6.6%			



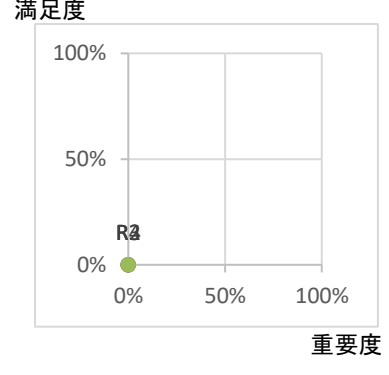
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



結果分析 設問1の満足度・重要度は現状値未満となった。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う家庭保育のお願い及び児童館・子育て支援センターの入場者数・時間制限や、放課後児童クラブの利用待機児童発生などが要因と考える。市民の満足度を向上するため、今後もより一層、子育て環境の充実に努めていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
令和4年度は、「第2期菊川市子ども・子育て支援事業計画(R2～R6までの5年間)及び「菊川市幼保施設整備計画(H30～R9までの10年間)」の中間年であったため、社会情勢や人口減少率の変化等を鑑み、人口推計、教育・保育ニーズの見直しを実施した。社会環境の変化や核家族化などによる出生数の減少等に対応するため、これらの計画に基づき、安心して子どもを産み育てられる社会の実現、子どもたちが健やかに育つことができるまちづくりを着実に進めていく。						

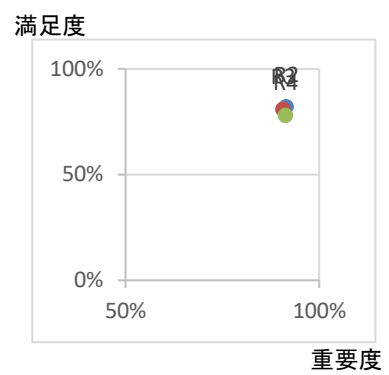
政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R4	政策	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり										こども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	16					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	192,581	184,721	251,137	207,417	政策費増減額		△ 7,860	66,416	△ 43,720		
	政策費/全体費					比較		96%	136%	83%		
	政策事業費(決算)	182,122	168,477	235,450		一般財源増減額		△ 3,114	△ 2,337	27,120		
	政策費/全体費				比較		98%	99%	115%			
	コスト分析と課題	母子保健事業は、出産・子育て応援ギフトの実施により、事業費が拡大している。健診事業や予防接種事業については、出生数による影響がある。不妊治療の一部保険適用やHPV(子宮頸がん)ワクチンの接種勧奨再開等については、市民へのさらなる周知等、対応していく必要がある。										
指標評価	総合計画										行政評価	
	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度			
	「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合	%	82.5	88.0	82.0	80.9	78.0	86.2	90.5%	現未	B	
	関連する施策											
	乳幼児健診の受診率(1歳6か月健診と3歳健診の平均)	%	96.5	100.0	103.7	97.3	100.1	98.8	101.3%	S	B	
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
指標分析と課題	妊娠から出産、育児まで、切れ目のない支援を進める体制整備に取り組んだ。乳幼児健診の受診率は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を講じながら実施し、昨年度を上回ることができた。今後も健診等の機会を捉えて、子どもや保護者が必要とする支援へ繋げていく必要がある。											
評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度					
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡大化○	縮減化△	
	1 母子保健事業の実施で親と子の健やかな成長を支援します	子育て応援課	S		A	維持	拡充	①				
	2 医療費助成で親と子の健康増進を推進します	子育て応援課	S		A	維持	維持	③				
3 子どもの成長や発達の支援に取り組みます	子育て応援課	S		A	維持	維持	①					

市民アンケート結果

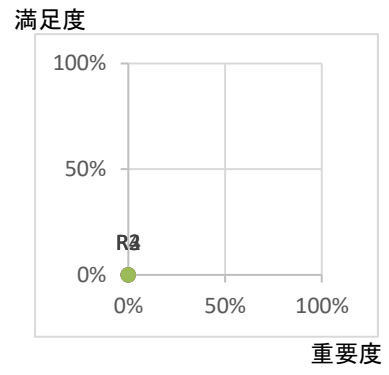
設問 1 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	82.4%	88.0%	82.0%	80.9%	78.0%	そう思う(満足)	13.6%
						どちらかといえば思う	64.4%
			93.2%	91.9%	88.6%	どちらかといえば思わない	15.0%
						そう思わない(不満)	3.2%
重要度			91.5%	90.7%	91.3%	重要	54.3%
						どちらかといえば重要	37.0%
						重要ではない	4.8%



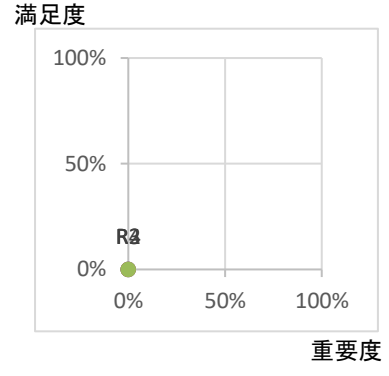
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



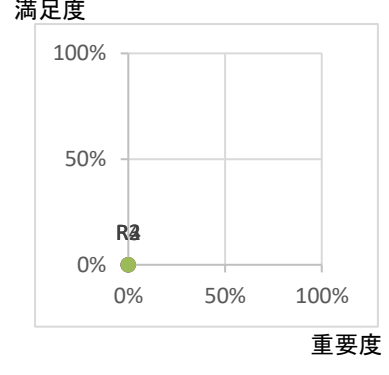
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1の満足度・重要度は現状値未満となった。市民満足度を向上させるため、母子保健事業、医療費助成、子どもの成長・発達の支援等をさらに推進し、子どもを安心して産み育てられるまちづくりを着実に進めていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方

令和4年度は、「第2期菊川市子ども・子育て支援事業計画(R2~R6までの5年間)の中間年であったため、社会情勢や人口減少率の変化等を鑑み、人口推計、教育・保育ニーズの見直しを実施した。不妊治療一部の保険適用、HPV(子宮頸がん)ワクチンの接種勧奨再開などのさらなる周知や、支援を要する子どものために策定した「きくすくファイル」の内容見直しによる学齢期以後の情報継続化等、努めていく必要がある。今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底し、各事業に取り組み、子どもを安心して産み育てられるまちづくりを着実に進めていく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R4	政策	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	1	2	4							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	政策事業費(予算)	1,097,581	1,095,536	1,432,804	771,836	政策費増減額	△ 2,045	337,268	△ 660,968			
	政策費/全体費					比較	100%	131%	54%			
	政策事業費(決算)	1,070,255	1,051,082	1,156,608		一般財源増減額	45,475	122,717	△ 94,640			
	政策費/全体費				比較	111%	126%	84%				
	コスト分析と課題	耐震補強・大規模改造工事など建築工事に係る経費は、新型コロナウイルス感染症などの影響などにより材料費が高騰し、年々コストが上昇している。また、施設の老朽化により修繕費などの維持管理経費が大きくなっている。令和4年度は国庫補助事業に伴い令和5年度に予定していた事業を前倒しているため大きな予算となっている。学校給食についても物価の上昇により賄材料費の確保が課題となっている。令和4年度は国の交付金を活用し保護者への軽減措置を行った。給食費の改正も視野に入れた検討が必要である。										

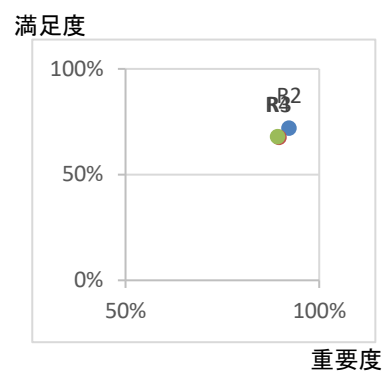
指標評価	総合計画										行政評価
	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思ふ市民の割合	%	74.1	79.0	71.9	67.5	67.8	77.4	87.6%	現未	C
	関連する施策										
	学校施設の耐震化率	%	76.9	100.0	92.4	94.3	96.2	92.3	104.2%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	今年度の小笠東小学校の耐震補強・大規模改造工事など、毎年校舎の耐震補強工事を実施することにより、着実に耐震化率が上昇している。しかし、市民アンケートの結果は昨年度より微増しているが低い状況である。これは、学校施設だけの問題ではなく、防災体制や感染症への影響など様々な教育環境による要因があるのではないかと考える。									

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 学校施設を適正に維持管理し耐震化や長寿命化に努めます	教育総務課	B		A	維持	維持	①		
	2 安全で安心して教育が受けられる環境づくりに努めます	教育総務課	S		A	維持	維持	①		
3 安全でおいしい給食を安定的に提供します	教育総務課	S		A	維持	維持	①			

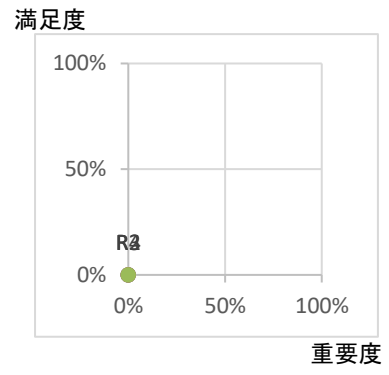
市民アンケート結果

総合評価

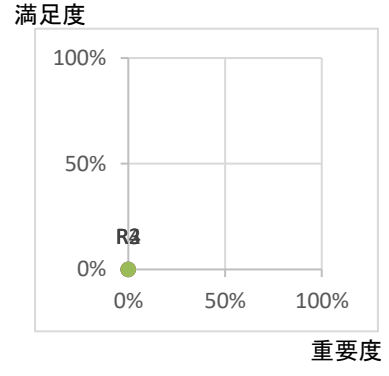
設問	1 「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度	74.1%	79.0%	71.9%	67.5%	67.8%	そう思う(満足)	9.2%			
						どちらかといえば思う	58.6%			
			91.0%	85.4%	85.8%	どちらかといえば思わない	23.9%			
重要度			92.2%	89.7%	89.3%	重要	52.3%			
						どちらかといえば重要	37.0%			
						重要ではない	6.7%			



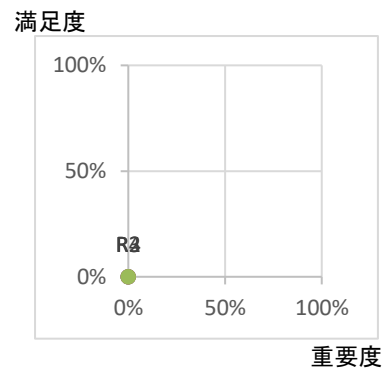
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 設問1の満足度、重要度ともに高い評価を受けている。着実に毎年耐震補強工事など、学校施設の整備を実施している結果である。また、老朽化している施設もあるが適切な修繕や維持管理を行っている。また、安心安全でおいしい給食の提供を行っている。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
令和4年度は小笠東小学校の耐震補強工事を実施し、耐震化率を向上させることができた。今後も子どもの安全・安心な教育環境を整えるため、耐震化率100%を目標に実施していく。また、耐震化に合わせ、老朽化による施設の改修を行い、校舎の長寿命化を図る必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち								作成部署
R4	政策	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	282,621	205,065	233,139	291,328	政策費増減額	△ 77,556	28,074	58,189	
	政策費/全体費					比較	73%	114%	125%	
	政策事業費(決算)	265,546	185,910	226,297		一般財源増減額	△ 44,435	35,780	49,890	
					比較	80%	120%	123%		
	コスト分析と課題	令和2年度にGIGAスクール構想による児童生徒一人ひとりへのタブレット端末を導入したことなど、教育に係るICT経費は大きなものとなっている。特にGIGAスクールを推進するためのGIGAスクールサポーターの配置やタブレット端末へのデジタル教科書の導入など今後も大きな経費が必要となる。								

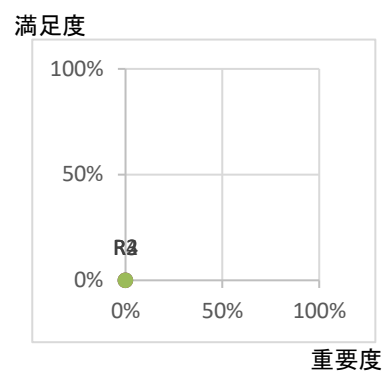
指標評価	総合計画										行政評価
	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	92.0	93.0	94.1	94.1	93.4	92.7	100.8%	S	B
	関連する施策										
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	87.3	90.0	91.1	92.3	91.5	89.1	102.7%	S	B
	関連する施策										
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	91.9	93.0	92.6	91.9	93.0	92.6	100.4%	S	B
	関連する施策										
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	83.4	85.0	87.2	87.4	87.8	84.5	103.9%	S	B
関連する施策											
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	90.6	91.0	93.2	94.1	94.8	90.9	104.3%	S	B	
関連する施策											
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	80.4	85.0	88.3	88.3	88.9	83.5	106.5%	S	B	
関連する施策											
全国学力学習状況調査における平均正答率(全国を100)	%	103.7	104.7	実施なし	99.6	99.2	104.4	95.0%	現未	B	
関連する施策											
指標分析と課題	「学校が楽しい」「授業がわかる」「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合は年度により多少増減があるが、全ての項目で令和7年度目標を上回っている。学力調査の結果は全国レベルには届いていない。ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により質の高い授業、不登校児童生徒への対応などきめ細かな対応を行っていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R6年度拡充化○縮減化△	
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	
	1 ICT環境を生かした魅力ある授業づくりを推進します	学校教育課	S	S	A	維持	維持	①		
	2 「一人ひとりが生きる教育」を推進します	学校教育課	現未		A	維持	維持	①		
3 中学校区等を核とした学びの環境づくりを推進します	学校教育課	S		A	維持	維持	①			

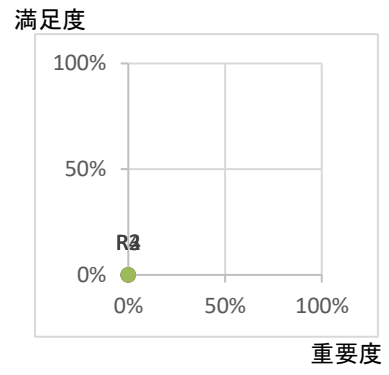
市民アンケート結果

総合評価

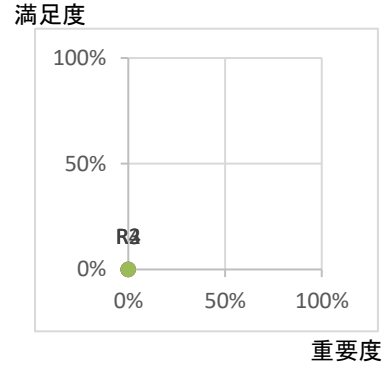
設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度					そう思う(満足)
					どちらかといえば思う
					どちらかといえば思わない
					そう思わない(不満)
重要度					重要
					どちらかといえば重要
					重要ではない



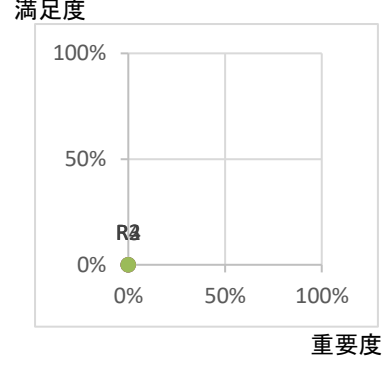
設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度					そう思う(満足)
					どちらかといえば思う
					どちらかといえば思わない
					そう思わない(不満)
重要度					重要
					どちらかといえば重要
					重要ではない



設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度					そう思う(満足)
					どちらかといえば思う
					どちらかといえば思わない
					そう思わない(不満)
重要度					重要
					どちらかといえば重要
					重要ではない



設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度					そう思う(満足)
					どちらかといえば思う
					どちらかといえば思わない
					そう思わない(不満)
重要度					重要
					どちらかといえば重要
					重要ではない



結果分析 ※市民アンケート結果なし

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により、質の高い授業が行われている。令和4年度はGIGAスクール構想により導入したタブレット端末の活用について、GIGAスクールサポーターを導入し、教職員の負担軽減を図る。今後も更なるICTを活用した教育の推進を図っていく。また、適用指導教室の運営や心の教育相談員の配置などによりきめ細かな指導を実施していく。なお、令和6年度からは全ての学校でコミュニティスクールを導入する計画であり、令和5年度はそのための準備を進める。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち								作成部署
R4	政策	5 人を育み、若者を育てるまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	17,019	13,057	15,507	20,093	政策費増減額	△ 3,962	2,450	4,586	
	政策費/全体費					比較	77%	119%	130%	
	政策事業費(決算)	15,796	11,918	14,214		一般財源増減額	△ 3,623	2,285	1,753	
					比較	78%	118%	112%		
コスト分析と課題		新型コロナウイルス感染症の影響からイベントの中止や縮小などにより予算に比べ決算額が減少している。感染症に配慮したイベントの開催方法などにより目標に向けた取り組みが必要である。図書館では電子図書館の導入を進めているため経費の増加が予想される。								

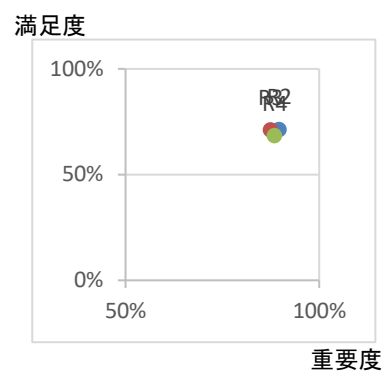
指標評価	総合計画										行政評価
	5 人を育み、若者を育てるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度			
	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市	%	72.4	82.0	71.3	71.0	68.4	78.8	86.8%	現未	C
	関連する施策										
	12歳以下の児童図書年間貸出冊数(1人あたり)	冊	28.7	33.0	28.2	34.1	32.99	31.6	104.4%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	市民アンケートである「学校・家庭・地域が一体となって子どもを育むまちづくりが進められている」の数値は減少している。これはコロナ禍における講座やイベントの中止や縮小の影響があると思われる。今後は家庭教育や学校のコミュニティスクール化などにより地域と一体となった教育を進める必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R6年度	
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 地域で子どもを守り育てる取り組みを進めます	社会教育課	現未		A	縮小	拡充	①		
	2 家庭の教育力向上に取り組みます	社会教育課	S		A	維持	維持	①		
3 子どもの読書活動を推進します	図書館	B		A	維持	維持	③			

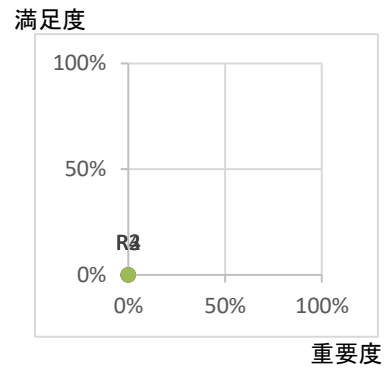
市民アンケート結果

総合評価

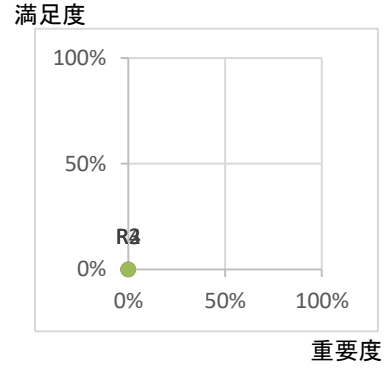
設問	1 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度	72.4%	82.0%	71.3%	71.0%	68.4%	そう思う(満足)	8.7%	
						どちらかといえば思う	59.7%	
			87.0%	86.6%	83.4%	どちらかといえば思わない	23.6%	
					そう思わない(不満)	3.8%		
重要度			89.7%	87.5%	88.5%	重要	42.9%	
						どちらかといえば重要	45.6%	
						重要ではない	7.4%	



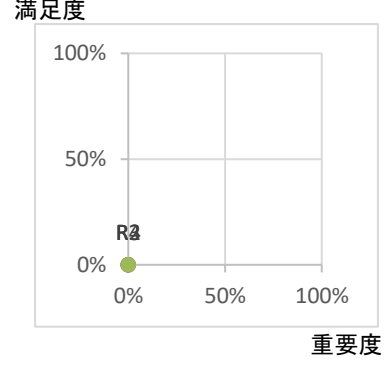
設問	2 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問	3 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問	4 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析: 市民アンケートから満足度が減少し重要度が上昇している。これは家庭教育や学校教育など子育てや教育に関心が深まっていることからの結果であると考えられる。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	維持→	③
政策内容						
新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの期間はあったが、菊川文庫及び小笠図書館の2館を開館し、図書の貸し出しやイベント等の事業を実施した。今後も地域や企業の協力をいただきながら、青少年の健全育成やその活動を支える人材の育成を行っていく。また、電子図書館の導入に向けて事業を進めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R4	政策	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり								健康福祉部
		SDGsゴール	3							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	113,692	589,223	528,054	414,850	政策費増減額	475,531	△ 61,169	△ 113,204	
	政策費/全体費					比較	518%	90%	79%	
	政策事業費(決算)	101,954	502,016	424,006		一般財源増減額	18,550	7,253	△ 21,520	
	政策費/全体費				比較	122%	107%	80%		
コスト分析と課題	企業版ふるさと納税寄附金を活用して実施する出張健康相談事業で使用する車両や健康測定機器の購入、第2次菊川すこやかプランの評価に係るアンケート調査の実施等により、特に施策1の健康増進事業に係る事業費が大きく増加した。 施策4の予防接種事業のうち、新型コロナワクチン接種事業については、従事者の調整やリース物品の見直し等を行い、経費削減に努めた。 コロナ禍において感染予防対策に努めながら、概ね計画どおり事業を実施することができた。 引き続き、事業実施に必要な予算確保及び適切な執行をしていく必要がある。									

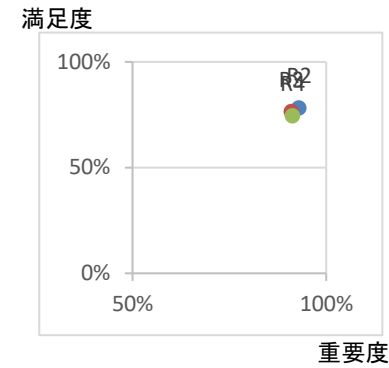
指標評価	総合計画										行政評価
	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思う市民の割合	%	79.5	85.0	78.1	76.4	74.5	83.2	89.6%	現未	C
	関連する施策										
	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思う市民の割合	%	65.3	75.0	62.1	64.4	61.5	71.8	85.7%	現未	C
	関連する施策										
	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思う市民の割合	%	65.5	76.0	66.0	68.3	67.2	72.5	92.7%	B	B
	関連する施策										
	一般成人「栄養のバランスに「気をつけている」と「少し気をつけている」人の割合	%	88.4	90.0	R4実施 (R1実施値 91.1)	R4実施 (R1実施値 91.1)	88.7	89.5	99.1%	B	B
関連する施策											
一般成人「普段運動をしている」人の割合	%	37.9	45.0	R4実施 (R1実施値 36.5)	R4実施 (R1実施値 36.5)	38.4	42.6	90.1%	B	B	
関連する施策											
指標分析と課題	健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るため、全ての年代においてライフステージに応じた健康づくりに取り組み、生活習慣病の発症予防と重症化予防など、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践できるよう支援している。 指標評価5以外は、前年度より実績値が低下してしまい、指標評価全てにおいて目標値を下回っている。 令和4年度に「食と健康・生活習慣に関するアンケート調査」を実施し、評価指標4・5を含めた69の項目で評価を行ったが、約4割の項目で評価数値の悪化がみられたため、一人ひとりが若い時期から健康に関心を持ち、正しい生活習慣を継続して実践することができるよう支援を強化していく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性				
					コスト	成果	改善			
	1 健康増進事業の実施によりみんなの健康を作ります	健康づくり課	S		B	維持	維持	①		
	2 検診事業の実施によりみんなの健康を維持します	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①		
3 心の健康事業の実施によりみんなの心の健康を作ります	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①			
4 予防接種事業の実施により疾病予防を行います	健康づくり課	S	S	A	縮小	拡充	①			

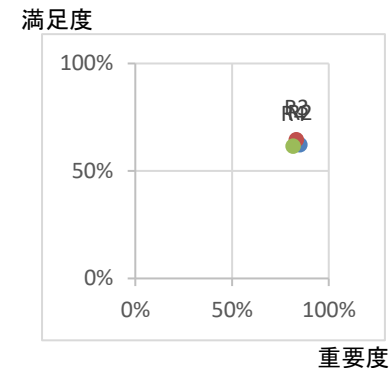
市民アンケート結果

総合評価

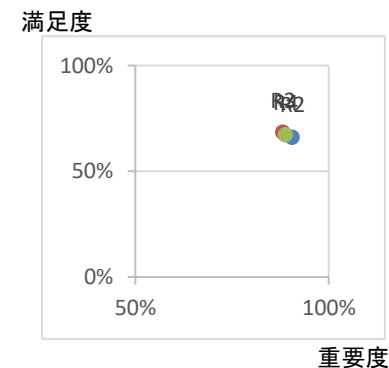
設問	1	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度	79.4%	85.0%	78.1%	76.4%	74.5%	そう思う(満足)	11.5%	
						どちらかといえば思う	63.0%	
			91.9%	89.9%	87.6%	どちらかといえば思わない	19.5%	
重要度			93.0%	91.0%	91.3%	そう思わない(不満)	3.6%	
						重要	44.9%	
						どちらかといえば重要	46.4%	
					重要ではない	5.8%		



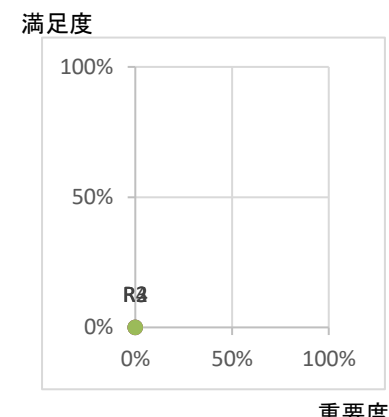
設問	2	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度	65.3%	75.0%	62.1%	64.4%	61.5%	そう思う(満足)	6.3%	
						どちらかといえば思う	55.2%	
			82.8%	85.9%	82.0%	どちらかといえば思わない	32.3%	
重要度			85.1%	83.3%	81.6%	そう思わない(不満)	3.3%	
						重要	28.2%	
						どちらかといえば重要	53.4%	
					重要ではない	15.3%		



設問	3	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度	65.5%	76.0%	66.0%	68.3%	67.2%	そう思う(満足)	11.0%	
						どちらかといえば思う	56.2%	
			86.8%	89.9%	88.4%	どちらかといえば思わない	25.5%	
重要度			90.6%	88.2%	88.8%	そう思わない(不満)	5.0%	
						重要	42.5%	
						どちらかといえば重要	46.3%	
					重要ではない	8.0%		



設問		結果(満足度下段:達成率)						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
重要度						そう思わない(不満)		
						重要		
						どちらかといえば重要		
					重要ではない			



結果分析  
 満足度については、全ての設問について、前年度から低下してしまいましたが、重要度については、設問1・3について上昇した。  
 健康に対する考え方や行動について、コロナ禍における影響が少なからずあると考えられるため、令和4年度に実施した「食と健康・生活習慣に関するアンケート調査」の結果を踏まえ、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に向けて、ウイズコロナを意識しながら効果的な事業実施ができるよう、令和5年度は「すこやかプラン」の最終評価及び次期計画策定を進めていく。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
「適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくりを進めるためには、若い時期から健康に関心を持ち、健康への意識を高めてもらうことが必要であるため、積極的な情報発信や啓発活動を行い、行動変容及び継続に繋がるライフステージごとの取り組みを進めていく。 令和4年度に実施した「食と健康・生活習慣に関するアンケート調査」の結果、特に改善率が低かった「食育・食生活」に関する分野や「運動」、「健康管理」の分野については、これまでの事業についての検証と効果的な取り組みについて検討し、国や県の計画を踏まえ、次期計画策定を行っていく。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R4	政策	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	8	10	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	656,402	614,607	628,668	644,839	政策費増減額	△ 41,795	14,061	16,171			
	政策費/全体費					比較	94%	102%	103%			
	政策事業費(決算)	640,246	607,957	603,399		一般財源増減額	△ 21,947	5,540	10,804			
	政策費/全体費				比較	96%	101%	102%				
<p>コスト分析と課題</p> <p>令和4年度は、感染予防対策を行いながら概ね計画どおりの事業が実施できたことで、敬老会の開催や介護予防プラン作成委託料等に係る事業費が増加した。また、次期介護保険計画等策定に関する高齢者実態調査や物価高騰対策支援の実施、介護保険特別会計への繰出金等の増額により事業費が増加した。コロナ禍による影響やその対策も踏まえながら、在宅福祉サービスや介護サービスを提供するための各事業は適切に実施できている。高齢者を取り巻く環境の変化を踏まえ、適切な予算確保及び執行に努める必要がある。</p>												

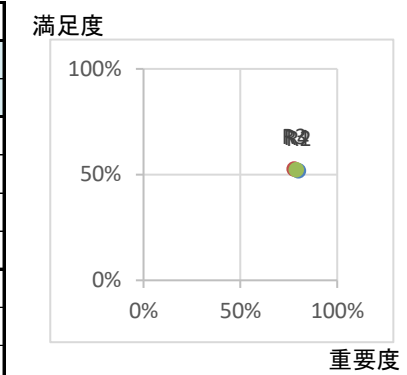
指標評価	総合計画										行政評価
	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	59.9	70.0	57.3	60.9	59.5	66.6	89.3%	現未	C
	関連する施策										
	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合	%	55.9	66.0	60.0	60.1	56.0	62.6	89.4%	B	C
	関連する施策										
	要支援・要介護認定を受けていない高齢者の割合	%	85.2	82.8	85.6	85.5	85.7	83.6	102.5%	S	B
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	<p>高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるよう、地域包括支援センターの機能強化や介護予防に関する取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図るための取り組みを進めている。指標評価1・2においては、昨年度より実績値が低下してしまったが、指標3については、目標値を達成しつつ、昨年度より0.2ポイント増加した。今後しばらく続く高齢者人口の増加を踏まえ、介護予防に関する取り組みや今後も増加が見込まれる認知症への対応、在宅医療・介護を継続的に提供するための関係機関との連携について充実していく必要がある。</p>										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性		コスト	成果	改善
						コスト	成果	改善		
	1 高齢者の介護予防と生きがいづくりを進めます	長寿介護課	B		A	拡充	拡充	②		
	2 地域包括ケアの体制を充実します	長寿介護課	S		A	維持	維持	③		
	3 高齢者の生活を支援する介護サービスを推進します	長寿介護課	S		A	維持	拡充	①		

市民アンケート結果

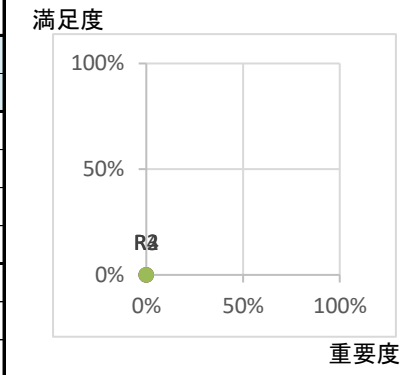
設問 1 「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	59.9%	70.0%	57.3%	60.9%	59.5%	そう思う(満足)	6.1%
						どちらかといえば思う	53.4%
						どちらかといえば思わない	31.7%
						そう思わない(不満)	6.0%
重要度			86.5%	84.3%	83.2%	重要	34.5%
						どちらかといえば重要	48.7%
						重要ではない	13.4%



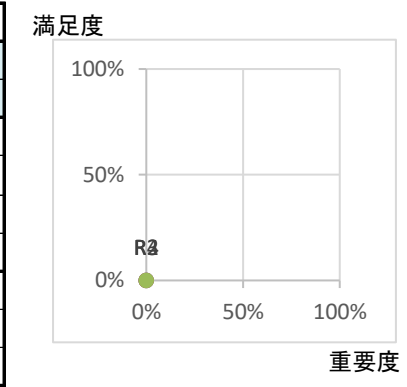
設問 2 「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	55.9%	66.0%	60.0%	60.1%	56.0%	そう思う(満足)	6.7%
						どちらかといえば思う	49.3%
						どちらかといえば思わない	35.4%
						そう思わない(不満)	5.9%
重要度			88.7%	86.5%	86.4%	重要	45.4%
						どちらかといえば重要	41.0%
						重要ではない	10.6%



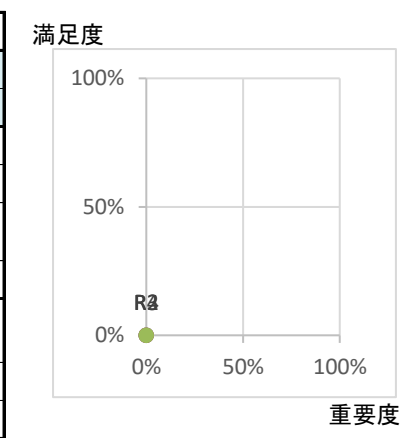
設問 3 「高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるよう、地域包括支援センターの機能強化や介護予防に関する取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図るための取り組みを進めている」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問 4 「高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくりを進めるために、3年ごとに策定する「介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画」に基づき、計画的に事業を実施している」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1・2とも、満足度及び重要度が低下してしまった。但し、重要度はいずれも80%以上の人が「重要」または「どちらかといえば重要」と考えているため、「生きがいを感じながら暮らせるまち」や、「高齢者やその家族を支える介護サービスが充実しているまち」を目指し、目標値達成に向け更なる取り組みを行っていく必要がある。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
<p>「高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくりを進めるために、3年ごとに策定する「介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画」に基づき、計画的に事業を実施している。令和4年度に実施した「高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査」結果を踏まえ、令和5年度は「第9期介護保険事業計画・第10次高齢者保健福祉計画」を策定する。今後も高齢者人口が増えていくなか、地域包括ケアシステムの更なる深化・推進を図るため、介護予防事業や認知症施策、在宅医療・介護連携事業、適正な介護保険サービスの提供等を行い、高齢者が健康で活動的に暮らすことができるよう支援していく。</p>						

政策評価シート

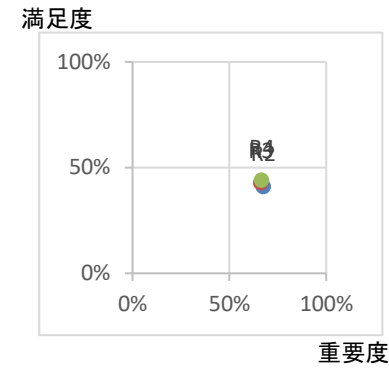
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R4	政策	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	10	11	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	258,012	661,882	624,500	308,024	政策費増減額		403,870	△ 37,382	△ 316,476		
	政策費/全体費					比較		257%	94%	49%		
	政策事業費(決算)	245,900	531,831	497,495		一般財源増減額		8,637	20,021	△ 21,347		
	政策費/全体費				比較		106%	114%	87%			
コスト分析と課題	令和4年度は、物価高騰に伴う電気料金等の光熱水費や市主催で開催した戦没者追悼式に係る事業費、人事院勧告による賃金上昇に伴う社会福祉協議会運営費補助金や生活保護世帯の増加に係る事業費等が増加したが、プラザげやき南館解体や地域福祉計画策定等があった前年度と比較すると、全体的な事業費は減少した。 市民の健康増進・福祉活動の拠点であるプラザげやきは、建設から20年以上が経過しており、修繕箇所も増えていることから、状況に応じ公共施設個別施設計画を前倒しながら予算確保及び整備を行っていく必要がある。 その他、地域福祉活動推進のための事業や、生活困窮者等に係る対応については、社会情勢に沿った緊急かつ応急的対策を引き続き行っていく必要がある。											

指標評価	総合計画										行政評価
	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」だと思ふ市民の割合	%	65.0	75.0	59.9	56.8	55.6	71.7	77.6%	現未	E
	関連する施策										
	コミュニティ協議会の福祉部に携わる人数	人	200	220	219	163	162	213	76.1%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	少子高齢・人口減少等の社会構造が変化の中で、市民の複雑化・複合化した生活課題に寄り添い、関連部署や関係機関、市民等と連携したきめ細やかな支援を行うため、市民等が支え合い、地域をともに創っていくことのできる「地域共生社会」の実現に向け、「第4次菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき取り組みを進めている。 指標評価1・2とも、前年度より実績値が低下してしまった。 コロナ禍の影響により減少してしまった地域福祉活動を盛り返していくと共に、避難行動要支援者個別避難計画や市民後見人養成に係る事業についても進めていく必要がある。										

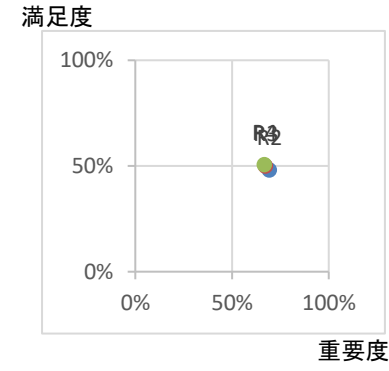
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	拡充化○ 縮減化△			
					コスト	成果	改善			
	1 地域における市民の福祉活動を支援します	福祉課	現未		A	拡充	拡充	①	拡充化○	
	2 地域福祉の担い手を育成・支援します	福祉課	現未		A	拡充	拡充	①	拡充化○	
	3 地域のなかでの自立した生活を応援します	福祉課	現未		A	維持	維持	①	拡充化○	

市民アンケート結果

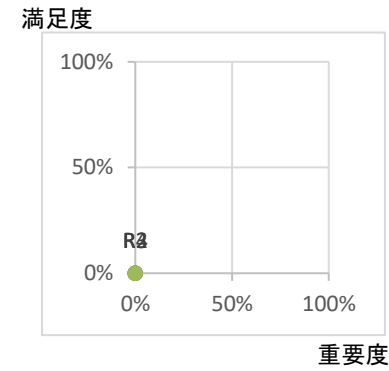
設問	1 「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	64.9%	75.0%	59.9%	56.8%	55.6%	そう思う(満足)	5.7%
						どちらかといえば思う	49.9%
			79.9%	75.7%	74.1%	どちらかといえば思わない	36.4%
重要度			86.1%	82.5%	81.9%	重要	30.1%
						どちらかといえば重要	51.8%
						重要ではない	15.0%



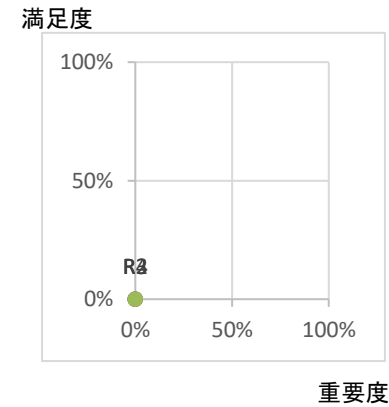
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 前年度より満足度は1.2ポイント減少、重要度は0.6ポイント減少してしまい、重要度は過去最低値を更新してしまった。但し、80%以上の人が「重要」または「どちらかといえば重要」と考えているため、「市民同士が地域で互いに支え合うことができるまち」を目指し、地域共生の必要性や重要性について、再認識してもらえるような取り組みを行っていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
「地域のなかで、互いに支え合うまちづくり」を進めるためには、各種相談支援窓口の周知や相談しやすい窓口づくり(重層的な支援体制づくり)、専門的な人材育成等が必要である。 各分野の要となる相談支援窓口間の連携はもとより、相談支援機関間の包括的な連携により、一人ひとりに寄り添った支援が必要である。また、相談支援や課題解決にあたっている身近な組織や人材との連携の強化も必要である。 これまでのコロナ禍の影響においてより複雑化・複合化した問題については、今後も対応が必要となることが想定されるため、引き続き、地域福祉への理解の醸成や、地域福祉に関わる地域活動者の拡大を図るなど、断らない相談支援を行っていく。						

政策評価シート

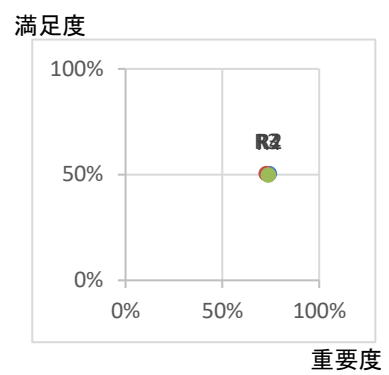
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち												作成部署
R4	政策	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり												健康福祉部
		SDGsゴール	3	8	10									
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度				
	政策事業費(予算)	1,064,806	1,140,708	1,222,698	1,153,222	政策費増減額		75,902	81,990	△ 69,476				
	政策費/全体費					比較		107%	107%	94%				
	政策事業費(決算)	1,037,099	1,107,917	1,189,544		一般財源増減額		12,949	37,765	△ 6,787				
	政策費/全体費				比較		104%	110%	98%					
コスト分析と課題	各種障害福祉サービス利用者の増加や、事業所の人件費に係る報酬改定が行われたことから事業費は増加した。年々事業費は増加しているが、予算に対し適正な執行がされている。施策の多くが国が定める障害福祉サービスの事業費であり、障がいのある人やその家族の生活や活動を支えるために必要な事業でもあるため事業費の削減は難しいが、相談事業所等と連携しながらサービス提供の適正化を図るとともに、適正な支給と予算の確保をしていく必要がある。													

指標評価	総合計画										行政評価
	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合	%	43.5	59.0	49.2	51.6	49.1	53.8	91.2%	B	B
	関連する施策										
	自立支援給付等決定対象者数	人	363	482	440	484	522	442	118.1%	S	A
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	障がいの有無にかかわらず、全ての人が社会の一員として、様々な活動への参加を通じて互いの理解を深め、尊重し合い、支え合うことで、安心して地域での生活を継続することができるよう、障害福祉サービス事業を実施している。指標評価1については前年度より2.5ポイント減少してしまった。指標評価2の自立支援給付等決定対象者数については年々人数が増加している。サービスを必要とする人が、必要とするサービスを受けることができるよう制度の周知をするとともに、適正な支給決定に努める必要がある。また、サービス提供の適正化を図ると共に、障害福祉サービス提供体制の整備や福祉人材の確保も行っていく必要がある。										

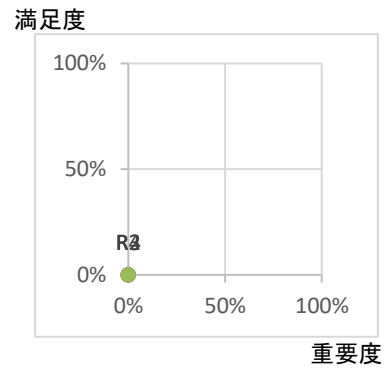
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	
	1 障がいのある人の自立した生活を支援します	福祉課	S	A	拡充	拡充	①	拡充化○		
	2 障がいのある人の地域での活動を促進します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	②	拡充化○		
3 障がいのある子どもの福祉サービスを充実します	福祉課	S	A	拡充	拡充	①	拡充化○			

市民アンケート結果

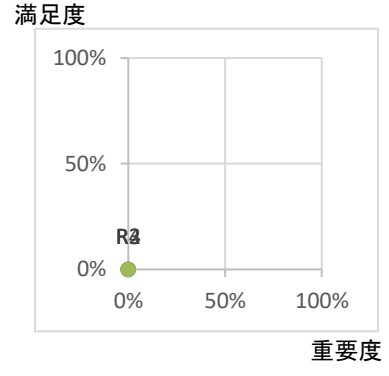
設問	1 「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度	43.5%	59.0%	49.2%	51.6%	49.1%	そう思う(満足)	4.3%			
						どちらかといえば思う	44.8%			
			83.4%	87.5%	83.2%	どちらかといえば思わない	40.1%			
					そう思わない(不満)	8.0%				
重要度			90.0%	86.1%	85.6%	重要	40.2%			
						どちらかといえば重要	45.4%			
						重要ではない	11.0%			



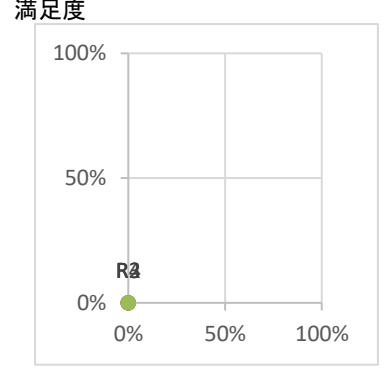
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
					そう思わない(不満)					
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
					そう思わない(不満)					
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
					そう思わない(不満)					
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 満足度及び重要度とも、前年度より低下してしまった。特に重要度は、令和2年度より年々低下しており、過去最低値となっていた。但し、85%以上の人が「重要」または「どちらかといえば重要」と考えていることから、「障がいのある人が安心して暮らすことができる」まちを目指し、障がいに対するまち全体の意識や理解を高めていく必要がある。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
「障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり」を進めるためには、地域生活の継続支援や就労支援など、障害福祉サービスの提供体制を整え、地域全体で支える仕組みが必要である。地域生活支援事業や障害福祉サービス事業については、利用者の状況やサービス利用動向を的確に把握し、サービスニーズに応えることができるよう事業を推進するとともに、必要な予算確保と適正支給に努める必要がある。令和5年度は、掛川市・御前崎市・菊川市の3市にて、次期「東遠地域広域障害者計画」及び「東遠地域広域障害児福祉計画」を策定し、今後進めていく障がい者施策の方向性及びサービス見込み量や提供体制等について、障がいのある人が自立した日常生活や社会生活ができるよう、多様なニーズを踏まえた支援について検討していく。						

総合評価

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R4	政策	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり								菊川病院
		SDGsゴール	3	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	政策事業費(予算)	1,148,251	1,206,735	1,229,636	1,174,739	政策費増減額		58,484	22,901	△ 54,897
	政策費/全体費					比較		105%	102%	96%
	政策事業費(決算)	1,147,065	1,206,653	1,229,613		一般財源増減額		82,144	△ 10,230	△ 14,272
	政策費/全体費				比較		107%	99%	99%	
	コスト分析と課題	地方公営企業の規定による一般会計と公営企業会計との経費負担区分の原則に基づき、地方公営企業に対し、総務省から示される「地方公営企業操出基準」に従い、繰り入れられているものであるが、病院経営状況の悪化に伴い、繰入額が増加しており、病院側の経営改善が求められている。								

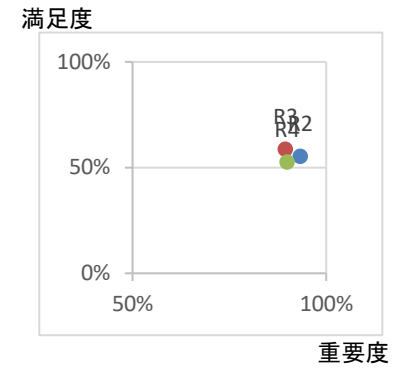
指標評価	総合計画										行政評価
	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」と思う市民の割合	%	46.7	62.0	55.3	58.6	52.5	56.9	92.3%	B	B
	関連する施策										
	菊川病院への紹介率	%	35.6	40.0	44.5	38.7	34.1	38.5	88.6%	現未	C
	関連する施策										
	菊川病院からの逆紹介率	%	27.7	30.0	31.0	26.0	21.3	29.2	72.9%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	令和2年度からの新型コロナウイルスの国内流行を契機に、菊川病院への紹介患者数は減少している。それまで活発化してきた地域医療における機能分化や病診連携の機能は、新型コロナウイルスの出現によって停滞してしまった。この間、患者自身の医療機関への受診控えや新型コロナへの対応に重点的に機能をシフトした事もあり、紹介状を持たない発熱患者の受け入れが増加したため、紹介率・逆紹介の低下につながったものと判断される。今後は、新興感染症への対策も強化しながら、限られた医療資源を地域で有効に活用できる連携体制を構築していかなければならない。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	拡充化○			
					コスト	成果	改善			
							縮減化△			
	1 医療機関、介護・福祉施設などの連携を進めます	地域医療支援課	現未	現未	A	維持	維持	①		
	2 菊川市立総合病院の機能を充実します	病院総務課、健康づくり課	S		A	維持	維持	①		
	3 家庭医養成プログラムを推進します	経営企画課	B		A	維持	維持	①		
	4 市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します	健康づくり課、経営企画課	S		A	維持	維持	①		

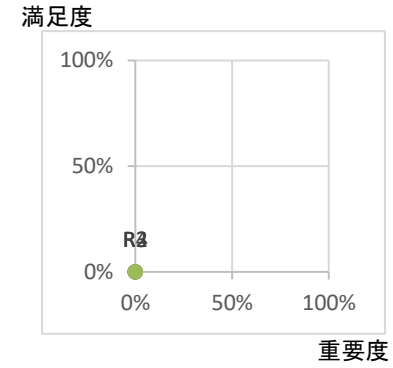
市民アンケート結果

総合評価

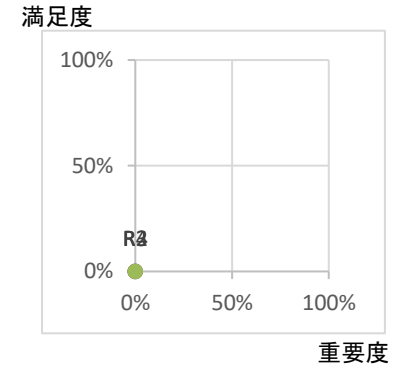
設問	1 「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	46.7%	62.0%	55.3%	58.6%	52.5%	そう思う(満足)	6.0%
						どちらかといえば思う	46.5%
			89.2%	94.5%	84.7%	どちらかといえば思わない	38.9%
						そう思わない(不満)	7.0%
重要度			93.3%	89.5%	89.9%	重要	51.7%
						どちらかといえば重要	38.2%
						重要ではない	8.2%



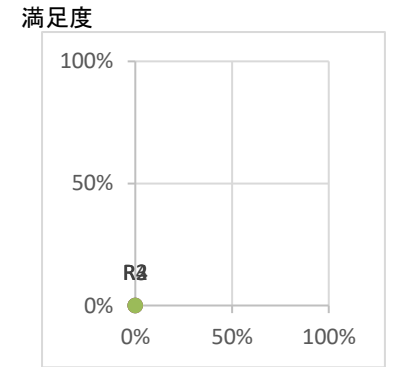
設問	2 「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	3 「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	4 「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 重要な設問であると判断されている市民が89.9%に対して、現状については52.5%の方しか満足されていない状況である。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方

中東連2次医療圏は、医療資源が不足している状況であり、当院が現在の診療機能を維持していくためには、医師の確保は最重要課題である。引き続き、浜松医科大学や近隣病院と連携し、臓器別専門医と家庭医の招聘を進める。また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、家庭医療センターや関係機関との連携体制を強化していく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R4	政策	6 生涯にわたり学べるまちづくり										教育文化部
		SDGsゴール	4	11	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	75,562	75,466	78,962	75,796	政策費増減額		△ 96	3,496	△ 3,166		
	政策費/全体費					比較		100%	105%	96%		
	政策事業費(決算)	74,885	74,628	77,047		一般財源増減額		1,722	915	△ 1,234		
	政策費/全体費				比較		102%	101%	98%			
	コスト分析と課題	新型コロナウイルス感染症の影響から講座の規模やイベントの中止などにより当初予算に比べ決算額が少なくなっている。しかし、令和3年度に比べれば各種講座も開催することができたため経費も大きくなっている。										

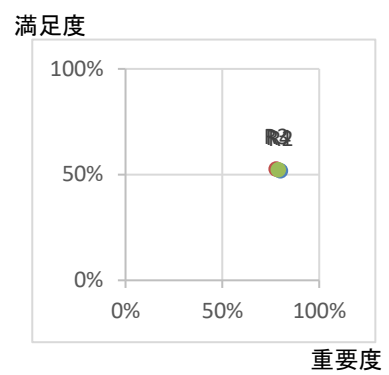
指標評価	総合計画										行政評価
	6 生涯にわたり学べるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合	%	51.6	62.0	51.8	52.6	52.3	58.5	89.4%	B	C
	関連する施策										
	生涯学習講座の参加者数	人	515	600	30	44	233	572	40.7%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	市民アンケートの結果は大きく変わっていないが、令和3年度に比べて生涯学習講座が実施できるようになってきたため、コロナ禍前とはいかないが、参加者数は回復してきている。									

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度 拡充化○ 縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性 コスト	成果	改善		
	1 生涯学習活動を推進します	社会教育課	現未	B	縮小	維持	③			
	2 読書環境の整備に努めます	図書館	S	A	維持	維持	②			
3 読書機会の提供・読書活動の啓発に努めます	図書館	現未	A	維持	維持	①				

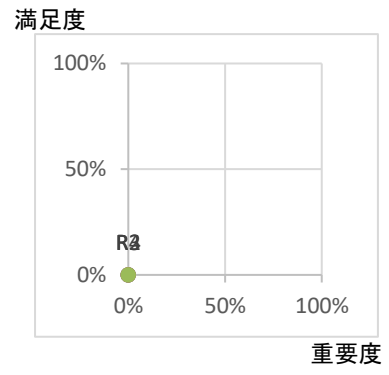
市民アンケート結果

総合評価

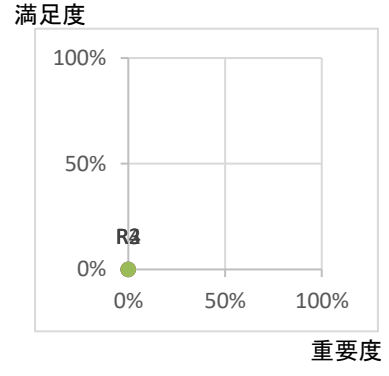
設問	1 「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度	51.6%	62.0%	51.8%	52.6%	52.3%	そう思う(満足)	4.0%			
			83.5%	84.8%	84.4%	どちらかといえば思う	48.3%			
						どちらかといえば思わない	39.6%			
						そう思わない(不満)	6.4%			
重要度			80.1%	77.8%	78.9%	重要	21.9%			
						どちらかといえば重要	57.0%			
						重要ではない	18.9%			



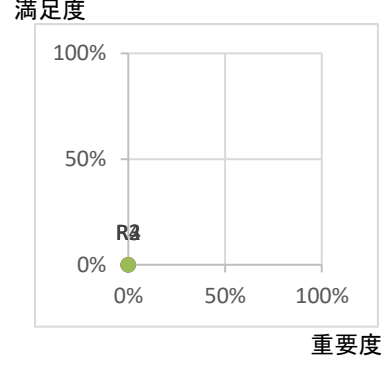
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析 満足度は昨年と比較して減少しているが、重要度は上昇している。これは各種講座などが満足に開催できていなかったが、こういった取り組みは今後も重要であると考えられる意見が多いことからの結果と考える。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
生涯学習だよりや各種講座など新型コロナウイルス感染症対策により縮小して開催したが、令和3年度より多く実施することができた。今後はさらに活発な活動を推進するため、様々な講座を通じて生涯学習の推進に取り組んでいく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R4	政策	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり								教育文化部
	SDGsゴール	4	11							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	158,288	271,865	374,114	419,099	政策費増減額	113,577	102,249	44,985	
	政策費/全体費					比較	172%	138%	112%	
	政策事業費(決算)	155,520	269,586	366,669		一般財源増減額	5,429	22,786	9,119	
	政策費/全体費				比較	104%	116%	106%		
	コスト分析と課題	菊川文化会館アエルの設備更新に年々大きな経費がかかっている。今後も計画的に設備の更新を実施していく必要がある。								

指標評価	総合計画										行政評価
	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合	%	39.1	54.0	41.0	42.8	44.0	49.0	89.7%	B	C
	関連する施策										
	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合	%	40.8	56.0	48.0	49.9	50.6	50.9	99.4%	B	B
	関連する施策										
	文化祭の来場者数	人	3,250	4,000	0	0	1,563	3,750	41.7%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	市民アンケートの結果から芸術文化活動や歴史・文化遺産が少しずつ定着していると考えられるが、まだまだ低い数値である。2年間で中止していた文化祭を開催することができたが、コロナ禍前の半分程度であるため、今後も文化活動を支援していく必要がある。										

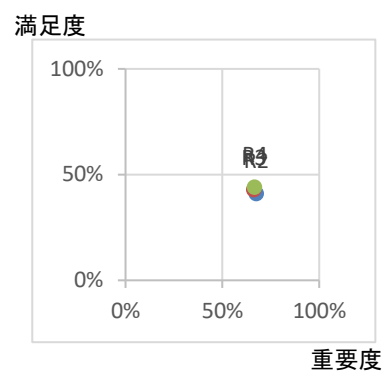
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R6年度	
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 鑑賞機会の提供に努めます	社会教育課	S		A	維持	維持	①		
	2 市民の文化・芸術活動を支援します	社会教育課	現未		B	維持	維持	①		
3 文化財の保存・周知・活用を推進します	社会教育課	B		B	維持	維持	①			

市民アンケート結果

総合評価

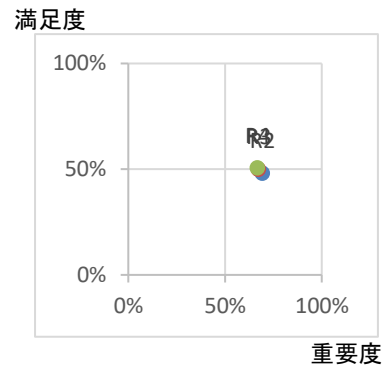
設問 1 「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	39.2%	54.0%	41.0%	42.8%	44.0%	そう思う(満足) 4.2%
						どちらかといえば思う 39.8%
			75.9%	79.3%	81.5%	どちらかといえば思わない 43.9%
						そう思わない(不満) 10.6%
重要度			67.5%	66.3%	66.7%	重要 14.3%
						どちらかといえば重要 52.4%
						重要ではない 31.0%



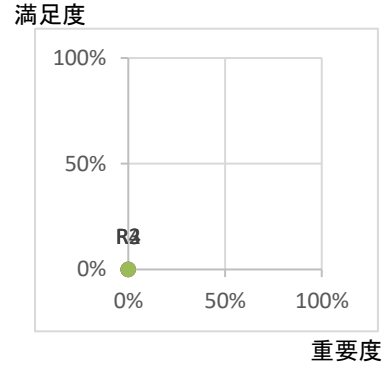
設問 2 「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	40.8%	56.0%	48.0%	49.9%	50.6%	そう思う(満足) 4.3%
						どちらかといえば思う 46.3%
			85.7%	89.1%	90.4%	どちらかといえば思わない 40.7%
						そう思わない(不満) 7.2%
重要度			69.3%	67.4%	66.8%	重要 13.3%
						どちらかといえば重要 53.5%
						重要ではない 30.3%



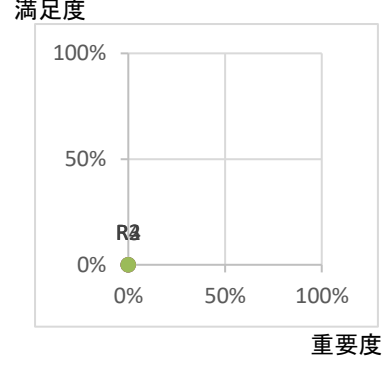
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



結果分析 文化や歴史に関する満足度は少し上昇しているが、重要度が減少している状況となっている。市民には様々なニーズがあるため、それぞれが必要とする活動を提供する必要がある。また、更なる周知に努める必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
文化活動として、多くの事業が中止されていたが、令和4年度には文化祭をはじめとするイベントを開催することができた。地域文化や地域資源の発信に努め、文化に触れる機会を提供していく。また、文化会館アエルなどの施設が安全に利用できるよう整備計画により順次設備更新などによる長寿命化を実施していく。歴史や文化遺産の保護に努め、更なる市民周知を行っていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R4	政策	8 スポーツが盛んなまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	3	11	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	政策事業費(予算)	111,636	88,256	120,306	193,118	政策費増減額	△ 23,380	32,050	72,812	
	政策費/全体費					比較	79%	136%	161%	
	政策事業費(決算)	111,133	87,326	118,615		一般財源増減額	△ 1,277	8,561	3,706	
	政策費/全体費				比較	98%	111%	104%		
コスト分析と課題		スポーツ施設の老朽化などにより、設備の更新に係る経費が大きく増加している。今後も適正な維持管理に努め長寿命化に努める必要がある。								

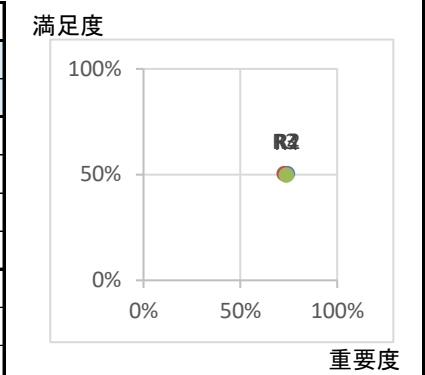
指標評価	総合計画										行政評価
	8 スポーツが盛んなまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合	%	54.0	59.0	50.4	50.4	49.7	57.3	86.7%	現未	C
	関連する施策										
	スポーツ施設年間利用者数	人	244,924	255,000	328,859	301,062	364,371	251,641	144.8%	S	S
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「誰もがスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合は昨年より減少している。これは、新型コロナウイルス感染症対策により、スポーツ活動に制限があったためと思われる。市主催や体育協会主催などの事業が再開されスポーツ活動も少しずつ増えているため、スポーツ施設の利用者数も増加してきている。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R6年度	
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 誰もがスポーツに触れ合う機会を創出します	社会教育課	現未		B	維持	維持	①		
	2 スポーツ活動の場を提供します	社会教育課	S		A	縮小	拡充	①		
3 スポーツ団体・スポーツ活動を支援します	社会教育課	現未		A	維持	維持	①			

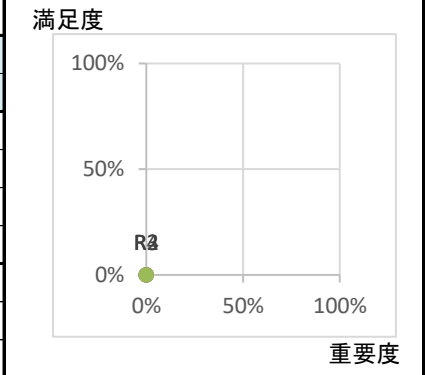
市民アンケート結果

総合評価

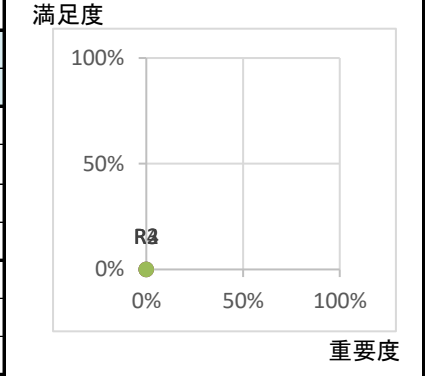
設問	1 「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」と思う市民の割合								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度				
満足度	54.0%	59.0%	50.4%	50.4%	49.7%	そう思う(満足)	5.7%		
						どちらかといえば思う	44.0%		
			85.4%	85.4%	84.2%	どちらかといえば思わない	40.2%		
重要度			74.4%	72.8%	73.8%	重要	18.3%		
						どちらかといえば重要	55.5%		
						重要ではない	23.9%		



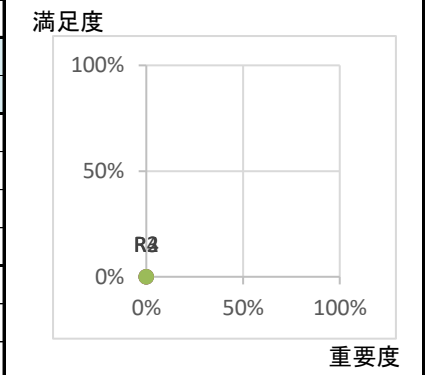
設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



結果分析 重要度が高いのに比べて満足度が低い状態となっている。これはスポーツ施設の使用に対し制限があったことが影響していると思われる。しかし、運動の機会が減ったことなどによりスポーツの重要性を再確認したものだと思われる。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
令和4年度は少しずつ主催事業、体育協会主催事業など多くの大会やイベントが開催することができた。今後はスポーツする機会を様々な形で提供しスポーツ振興を進める。また、老朽化した施設が多くなっているため、多くの市民が安全・安心に施設が利用できるよう適正な維持、管理及び長寿命化に取り組んでいく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R4	政策	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	2	5	8	15						
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	414,360	616,344	737,303	304,564	政策費増減額		201,984	120,959	△ 432,739		
	政策費/全体費					比較		149%	120%	41%		
	政策事業費(決算)	405,066	311,369	368,211		一般財源増減額		△ 27,930	28,594	△ 39,918		
	政策費/全体費				比較		89%	113%	84%			
	コスト分析と課題	農業振興を図るための予算としては、地域特産物推進事業費補助金や水田高収益作物生産転作推進事業費補助金の活用者が増加しており、成果として表れている。市の施策は農業者のやる気を後押しするものであり、引き続き補助金等の支援は必要である。 事業費の多くは土地改良事業の予算であるが、農地集積等には基盤整備が欠かせない。また、ため池の耐震補強工事により、市民生活の安心・安全を守るため必要な予算である。										

指標評価	総合計画										行政評価
	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合	%	78.0	83.0	79.7	78.1	78.3	81.3	96.3%	B	B
	関連する施策										
	地域特産作物の開発数	件	0	4	2	3	3	3	100.0%	B	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	経営基盤の強化を図るためにも高収益作物との複合経営を進めており、昨年度より0.5ha増加し順調に転換面積が増加している。地域特産物については、「オリーブ」の生産者が増えている。引き続き次世代農業モデルを目指し各種事業を進めていく。									

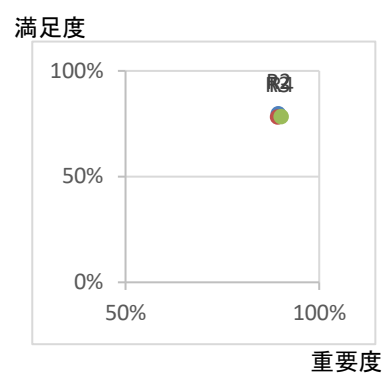
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 菊川型農業モデルの創出を図ります	農林課	B		A	維持	拡充	①			
	2 経営感覚に優れた担い手の確保と育成を図ります	農林課	S		A	維持	拡充	①			
	3 農業経営基盤の強化を促進します	農林課	B		A	維持	維持	①			
	4 農地の適正な管理と利用を促進します	農林課	S		A	維持	拡充	①			
5 農業生産基盤の整備と維持管理を行います	農林課	B		A	維持	拡充	①				

市民アンケート結果

総合評価

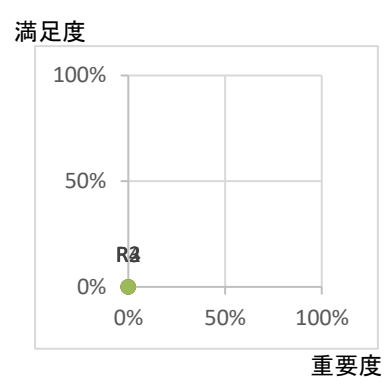
設問 1 「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	77.9%	83.0%	79.7%	78.1%	78.3%	そう思う(満足) 16.6%
						どちらかといえば思う 61.7%
			96.0%	94.1%	94.3%	どちらかといえば思わない 17.6%
						そう思わない(不満) 3.3%
重要度			89.5%	89.3%	90.2%	重要 39.0%
						どちらかといえば重要 51.2%
						重要ではない 7.4%



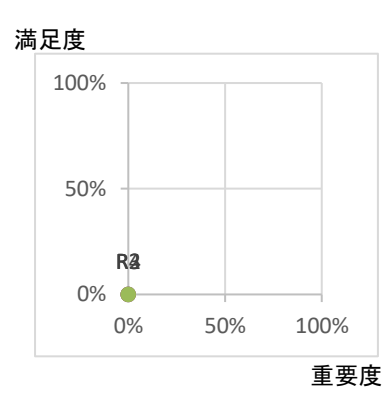
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



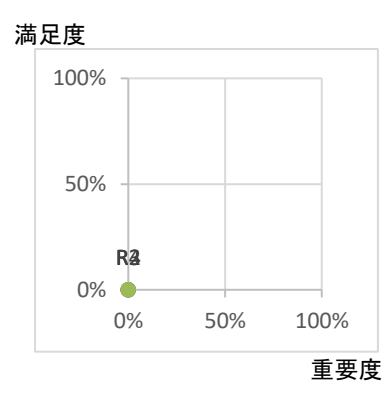
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



結果分析 市民アンケート結果では、満足度において開始時以上、昨年度以上となった。市内には優れた農産物・生産者がたくさん存在するが、まだまだ市民へのPRが足りない。このため引き続き各種事業を推進するとともに情報発信にも力を入れていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
高齢化による後継者不足等農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。「みどりの食糧システム戦略」を推進していくに当たり、引き続き、経営基盤の強化・担い手の確保・農地集積・有機農業等の各種事業を実施していく。また、農業委員会等と連携し、荒廃農地解消も進めていく必要がある。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署
R4	政策	2 活力と魅力のある茶のまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	2	8						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	424,028	431,923	30,922	22,680	政策費増減額	7,895	△ 401,001	△ 8,242	
	政策費/全体費					比較	102%	7%	73%	
	政策事業費(決算)	19,379	424,956	29,985		一般財源増減額	1,404	2,845	△ 2,146	
	政策費/全体費					比較	108%	114%	91%	
	コスト分析と課題	菊川茶の生産基盤を維持していくためには、茶農家等への支援は大変重要である。支援の拡大も含め予算化していく必要がある。また、リーフ茶の需要を伸ばすためには消費拡大事業や茶文化の継承も重要であるため、引き続き現予算を確保する必要がある。								

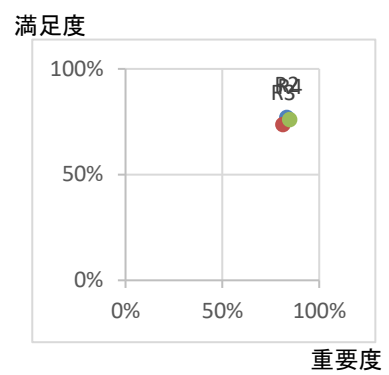
指標評価	総合計画										行政評価
	2 活力と魅力のある茶のまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「茶の生産が盛んなまち」と思う市民の割合	%	82.7	88.0	77.0	73.6	76.0	86.2	88.1%	現未	C
	関連する施策										
	茶園管理組織経営体数	経営体	5	16	6	6	6	12	50.0%	C	D
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	指標分析と課題	各茶農協の運営や自園自製農家もさらに厳しくなることが予想されるため、生産・販売を含めた法人化を進める必要があり、法人化した茶農協等の経営内容をさらに進化させ市内の茶農協等への波及が必要である。									

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 活力ある茶業の振興を推進します	茶業振興課	C		A	維持	維持	①		
	2 茶の消費拡大を図ります	茶業振興課	C		B	維持	維持	①		
3 茶文化を継承します	茶業振興課	B		A	維持	維持	②			

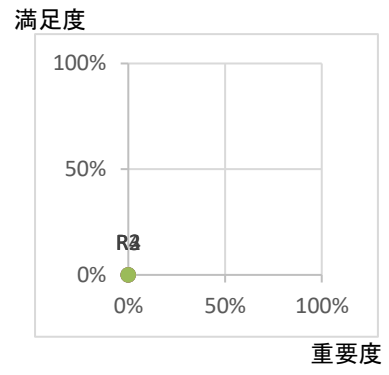
市民アンケート結果

総合評価

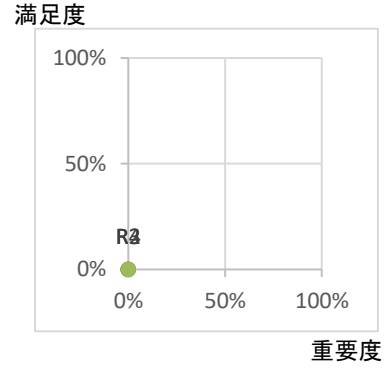
設問	1 「茶の生産が盛んなまち」と思う市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度	82.7%	88.0%	77.0%	73.6%	76.0%	そう思う(満足)	29.7%	
						どちらかといえば思う	46.3%	
			87.5%	83.6%	86.4%	どちらかといえば思わない	19.3%	
						そう思わない(不満)	3.6%	
重要度			83.3%	81.4%	84.9%	重要	35.8%	
						どちらかといえば重要	49.1%	
						重要ではない	13.3%	



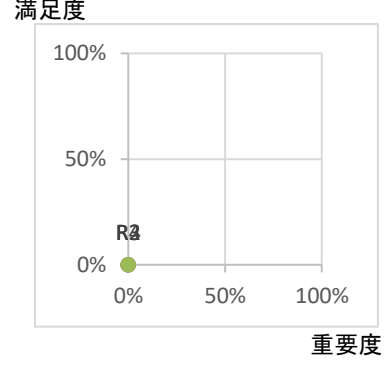
設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において開始時よりは下降しているが昨年度以上となった。茶業が厳しい現状に対して、市民も盛んではなくなっていると感じている結果である。「第2次菊川市茶業振興計画(菊川茶産地持続化計画)」に掲げた事業を確実に推進し、また、GI登録を契機として、茶経営体の強化とともに、消費拡大・販路拡大に向けさらにPRを行っていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
「第2次菊川市茶業振興計画(菊川茶産地持続化計画)」に掲げた事業を確実に推進し、新たな協議会を立ち上げるなど茶業の課題解決に向けた取り組みを茶業関係者全体で取り組んでいく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R4	政策	3 商工業が活気あるまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	4	5	8	9	10					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	750,370	903,144	944,249	637,609	政策費増減額		152,774	41,105	△ 306,640		
	政策費/全体費					比較		120%	105%	68%		
	政策事業費(決算)	721,624	834,846	820,638		一般財源増減額		25,368	77,227	△ 119,688		
	政策費/全体費				比較		135%	179%	32%			
	コスト分析と課題	中小企業等の労働者福祉の増進、商工会が小規模事業者に行う経営改善普及事業等に対する補助、企業誘致に伴う助成など市内商工業者の操業を支援するためには必要な予算である。										

指標評価	総合計画										行政評価
	3 商工業が活気あるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合	%	60.9	71.0	68.2	67.0	65.9	67.6	97.4%	B	B
	関連する施策										
	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合	%	41.5	57.0	53.8	52.7	55.8	51.8	107.7%	B	B
	関連する施策										
	事業所数(二次産業・三次産業の計)	事業所	1,738	1,800	R3実施	1,663	未公表	1,779	-	-	-
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「買物がしやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標については、現状値から確実に上昇しており、これまでの取組の成果が表れている。「事業所数」の指標市内においてはコロナ禍の影響による事業所の減少が見られるため、商工会等関係団体と連携し、支援策を考えていかなければいけない。										

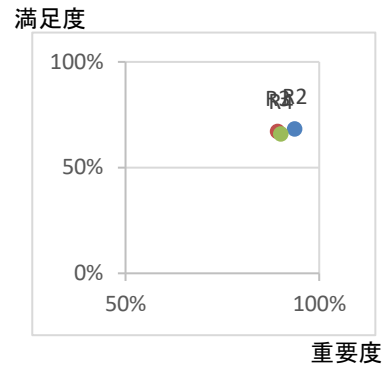
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 就労機会の拡大を図ります	商工観光課	S		A	拡充	拡充	①		
	2 がんばる事業者を応援します	商工観光課	現未		A	拡充	維持	③		
3 市内企業の応援と進出企業の獲得に努めます	商工観光課	B		A	維持	維持	③			

市民アンケート結果

総合評価

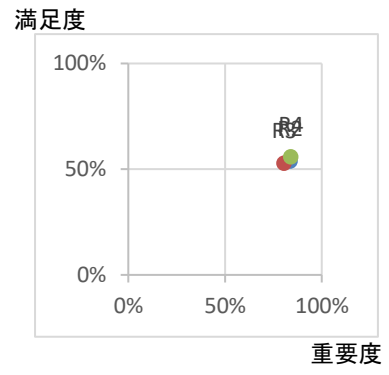
設問 1 「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	60.9%	71.0%	68.2%	67.0%	65.9%	そう思う(満足) 19.6%
						どちらかといえば思う 46.3%
			96.1%	94.4%	92.8%	どちらかといえば思わない 26.6%
						そう思わない(不満) 7.2%
重要度			93.7%	89.3%	90.1%	重要 48.7%
						どちらかといえば重要 41.4%
						重要ではない 8.3%



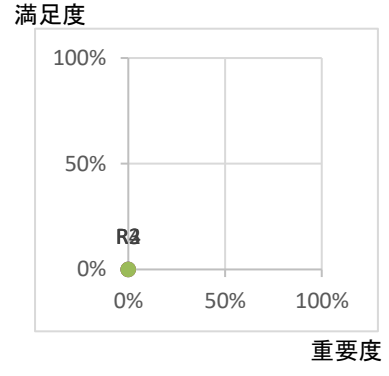
設問 2 「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	41.5%	57.0%	53.8%	52.7%	55.8%	そう思う(満足) 5.7%
						どちらかといえば思う 50.1%
			94.4%	92.5%	97.9%	どちらかといえば思わない 37.1%
						そう思わない(不満) 5.9%
重要度			83.6%	80.6%	84.0%	重要 31.1%
						どちらかといえば重要 52.9%
						重要ではない 13.8%



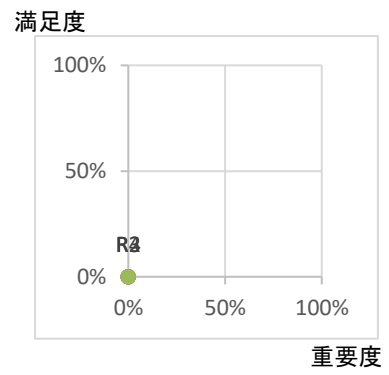
設問 3 「買物がしやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標について

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



設問 4 「買物がしやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標について

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



結果分析 設問1は開始時以上となったが、昨年度よりは下がった。設問2は昨年度より上昇した。民間開発等による商業施設や商店、住宅地の開発により利便性が向上していると考えられるが、今後に予定している工場用地の造成計画や駅北開発の計画により、さらに満足度を高めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
行政としても商工会等との連携や企業誘致を進めていく必要があるため、民間主導で現在進めている工場用地計画を推進する。また、人口減少の抑制のためにも駅北開発等のまちづくりを行っていく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署
R4	政策	4 人が訪れるまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	8	11	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	政策事業費(予算)	43,708	43,531	65,534	84,100	政策費増減額		△ 177	22,003	18,566
	政策費/全体費					比較		100%	151%	128%
	政策事業費(決算)	42,451	41,734	62,911		一般財源増減額		△ 5,040	18,263	9,877
	政策費/全体費				比較		86%	160%	120%	
	コスト分析と課題	本市の認知度向上、交流人口の拡大を推進する予算であり、さらに定住人口の増加や流出抑制を図るためには必要な予算である。								

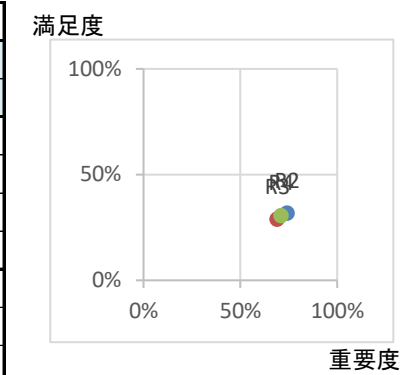
指標評価	総合計画										行政評価
	4 人が訪れるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思ふ市民の割合	%	20.7	41.0	31.7	28.8	30.6	34.2	89.4%	B	C
	関連する施策										
	観光交流客数	人	364,388	400,000	326,838	238,146	284,066	388,129	73.2%	現未	E
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	コロナ禍の影響により集客力のあるイベントが全て開催されたわけではなかったため、観光交流客数は減少したが、少しずつ元の活気を取り戻しつつあるため、昨年度よりは上昇した。感染状況や国・県の動向を見ながら、ウイズコロナを意識したイベント実施の方法を検討していく。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R6年度 拡充化○ 縮減化△	
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	
	1 市民力による魅力発信を支援します	商工観光課	B		A	拡充	維持	①		
	2 マスコットを活用した情報発信を行います	商工観光課	B		A	維持	維持	③		
3 広域市町と連携した交流人口の増加を図ります	商工観光課	現未		A	維持	維持	③			

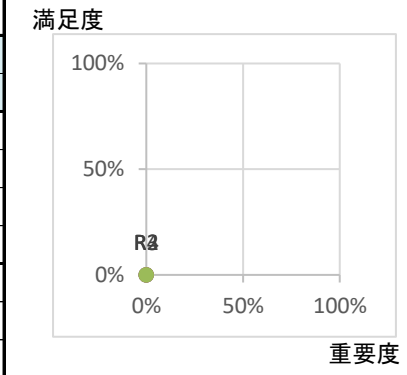
市民アンケート結果

総合評価

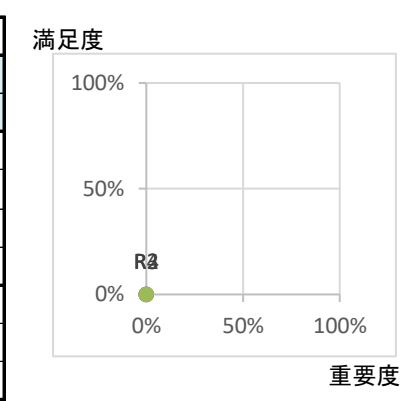
設問	1 「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度	20.7%	41.0%	31.7%	28.8%	30.6%	そう思う(満足)	2.9%	
			77.3%	70.2%	74.6%	どちらかといえば思う	27.7%	
						どちらかといえば思わない	54.0%	
						そう思わない(不満)	14.1%	
重要度			74.1%	69.1%	71.0%	重要	18.4%	
						どちらかといえば重要	52.6%	
						重要ではない	26.6%	



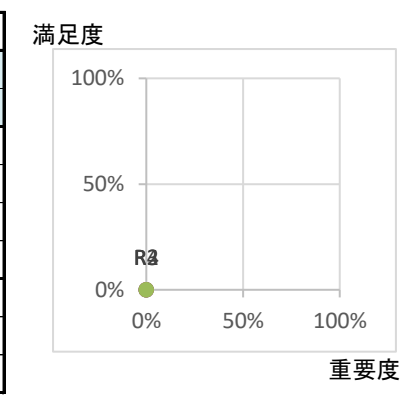
設問	2 「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問	3 「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問	4 「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において開始時以上、昨年度以上となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各種イベントや体験型観光ツアーが中止や規模縮小となるなか、ウイズコロナを意識したイベントの開催方法等の工夫やこれまでの取組の成果があったものと認識している。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
コロナ禍の影響により様々なイベント等が中止、縮小となっているが、ウイズコロナで知恵を出し、商工会や観光協会等関係団体と連携し、交流人口を増やしていく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署
R4	政策	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	16							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	2,713	3,369	2,769	2,939	政策費増減額	656	△ 600	170	
	政策費/全体費					比較	124%	82%	106%	
	政策事業費(決算)	2,700	3,357	2,678		一般財源増減額	126	△ 142	112	
	政策費/全体費				比較	110%	90%	109%		
	コスト分析と課題	消費者被害を未然に防ぐための関係機関との連携強化、消費者トラブルの早期解決を図るためには必要な予算である。								

指標評価	総合計画										行政評価
	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思	%	45.3	60.0	51.1	48.0	49.1	55.1	89.1%	B	C
	関連する施策										
	消費生活センター相談件数	件	197	100	235	238	242	132	54.5%	現未	D
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	消費生活センター相談件数は増加したが、センターが機能している側面もある。引き続き、被害防止のための啓蒙活動と消費生活センターの周知を図り、消費者相談を受けていく。										

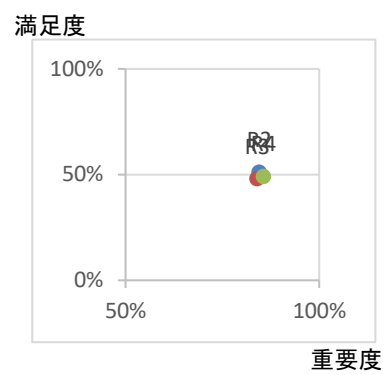
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	
	1 消費者被害の軽減に努めます	商工観光課	現未		A	維持	維持	③		
2 消費生活センターの機能を強化し、消費者の保護に努めます	商工観光課	現未		A	維持	維持	③			

市民アンケート結果

総合評価

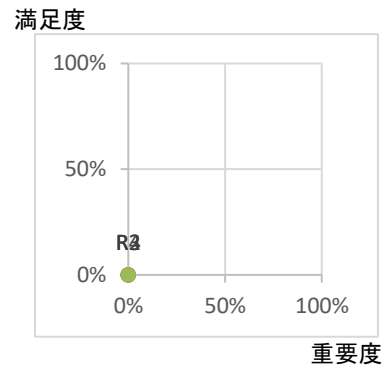
設問 1 「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	45.3%	60.0%	51.1%	48.0%	49.1%	そう思う(満足) 4.3%
						どちらかといえば思う 44.8%
			85.2%	80.0%	81.8%	どちらかといえば思わない 43.7%
						そう思わない(不満) 6.0%
重要度			84.5%	84.0%	85.6%	重要 36.3%
						どちらかといえば重要 49.3%
						重要ではない 12.5%



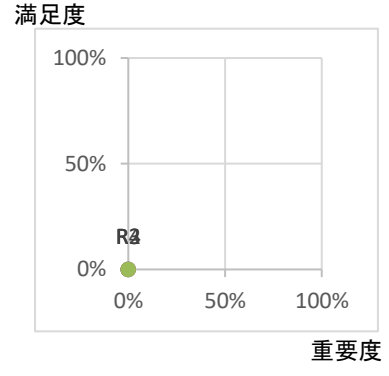
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



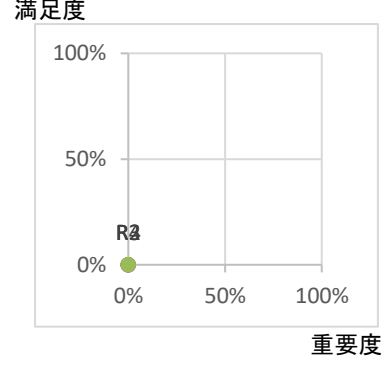
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足)
						どちらかといえば思う
						どちらかといえば思わない
						そう思わない(不満)
重要度						重要
						どちらかといえば重要
						重要ではない



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において開始時以上、昨年度以上となった。引き続き関係団体等の協力を得て、啓蒙活動を行い未然防止を行っていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③
						政策内容
悪徳商法や特殊詐欺が年々巧妙化している。コロナ感染拡大により在宅している人が増え、それを狙った詐欺が広がっているため、引き続き啓蒙活動を行うとともに、消費生活センターへの相談を周知していく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R4	政策	1 防災力を高めるまちづくり										危機管理部
		SDGsゴール	11	13	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	272,261	219,615	415,649	354,603	政策費増減額	△ 52,646	196,034	△ 61,046			
	政策費/全体費					比較	81%	189%	85%			
	政策事業費(決算)	250,323	207,644	366,645		一般財源増減額	△ 28,688	34,343	△ 41,017			
	政策費/全体費				比較	78%	133%	70%				
コスト分析と課題		「防災力を高めるまちづくり」には、災害復旧費事業費も含まれており災害発生状況により事業費の増減がある。										

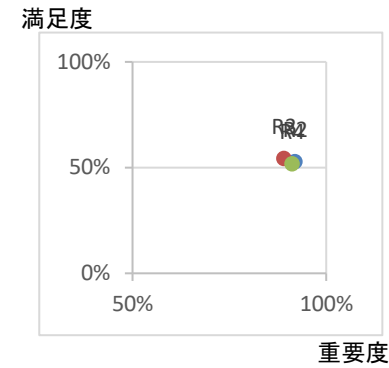
総合計画											行政評価
1 防災力を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
		H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度			
「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合	%	50.4	60.0	52.8	54.2	51.7	56.8	91.0%	B	B	
関連する施策											
「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合	%	68.1	78.0	63.9	68.3	66.5	74.7	89.0%	現未	C	
関連する施策											
住宅の耐震化率	%	84.2	95.0	93.7	94.1	94.5	91.4	103.4%	B	B	
関連する施策											
地域防災訓練(12月)への参加者数	人	14,318	15,750	537	8,028	7,968	15,273	52.2%	現未	E	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	防災力の強化を図るためには、「共助」による地域での防災活動が重要であるが、コロナ禍により従来の訓練や活動が実施できなく、地域防災訓練の参加者も大幅に減少している。大規模災害に備え感染症対策を講じた訓練や防災活動が課題となる。										

関連施策										
施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度 拡充化○ 縮減化△			
		成果1	成果2	判定評価	R6の方向性 コスト	成果改善				
1 災害に強いまちをつくります	都市計画課、建設課、危機管理課、健康づくり課	B		A	拡充	拡充	①			
2 自主防災組織の体制及び連携強化を図ります	危機管理課	S		A	拡充	拡充	①			
3 市民の防災意識の高揚を図ります	予防課、危機管理課	B		B	維持	維持	①			
4 市民の防災活動への参加を推進します	危機管理課、消防署	現未		A	拡充	拡充	①			
5 避難情報の適切な伝達と避難体制の強化を図ります	危機管理課	S		A	拡充	拡充	①			

市民アンケート結果

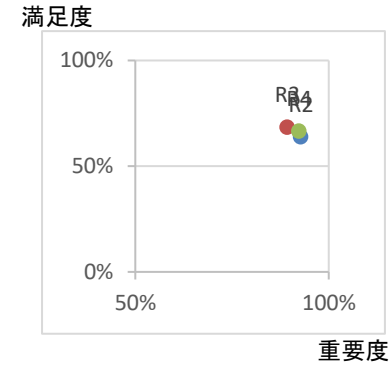
設問 1 「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	50.4%	60.0%	52.8%	54.2%	51.7%	そう思う(満足)	5.1%
						どちらかといえば思う	46.6%
			88.0%	90.3%	86.2%	どちらかといえば思わない	39.4%
重要度			92.0%	89.1%	91.2%	重要	59.0%
						どちらかといえば重要	32.2%
						重要ではない	7.2%



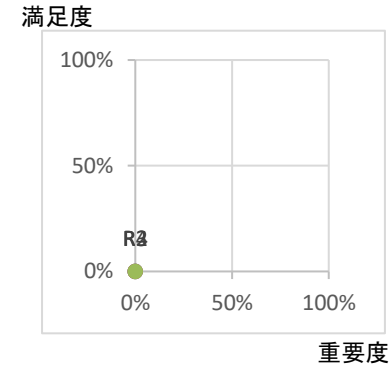
設問 2 「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	68.1%	78.0%	63.9%	68.3%	66.5%	そう思う(満足)	8.8%
						どちらかといえば思う	57.7%
			81.9%	87.6%	85.3%	どちらかといえば思わない	28.0%
重要度			92.8%	89.3%	92.3%	重要	50.2%
						どちらかといえば重要	42.1%
						重要ではない	5.9%



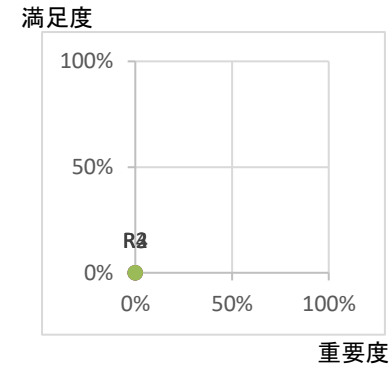
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 アンケート結果については、「災害に備え防災対策が整っているまち」「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合については、昨年度と比べ満足度が減少している。これはコロナ禍による各防災訓練の中止や規模縮小などによる防災活動の低迷が要因として推測される。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方

総合評価

「防災力を高めるまちづくり」については、「自助」として「自分の命は自分で守る」「共助」として地域による助け合い「公助」としてハード・ソフトによる防災力の強化が重要である。この数年、新型コロナウイルス感染症により防災訓練などが、中止や規模縮小となっているが、令和4年度においては、避難所での感染症を踏まえた訓練を新たに実施している。このようにコロナ禍であっても、どうやって防災活動を以前のように実施していくか、地域の方や関係機関との連携を図る中で防災活動を推進していく必要がある。

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち										作成部署
R4	政策	2 交通事故・犯罪のないまちづくり										総務部
		SDGsゴール	3	13	16							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	政策事業費(予算)	52,746	59,775	92,935	81,254	政策費増減額	7,029	33,160	△ 11,681			
	政策費/全体費					比較	113%	155%	87%			
	政策事業費(決算)	52,510	58,996	91,547		一般財源増減額	2,876	34,464	△ 12,697			
	政策費/全体費					比較	106%	167%	85%			
	コスト分析と課題	『第2次菊川市総合計画』の基本目標4「快適な環境で安心して暮らせるまち」の実現に向け、交通事故や犯罪のないまちづくりに取り組んだ。 コストは、交通安全施設の整備に係る事業費の増や交通指導隊の改選に伴う経費の増などにより、前年度比で増額となったが、各種交通安全運動の展開、防犯灯設置工事など、予定していた事業を実施することができた。 今後も、菊川警察署や交通指導隊、防犯協会等、関係機関との連携を強化しながら、より安全で安心なまちづくりを進めていく。										

指標評価	総合計画										行政評価
	2 交通事故・犯罪のないまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合	%	55.8	66.0	60.6	53.7	55.4	62.6	88.5%	現未	C
	関連する施策										
	「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	71.6	82.0	78.2	79.8	78.9	78.5	100.5%	B	B
	関連する施策										
	交通事故年間発生件数	件	314	300	191	171	191	305	159.7%	S	S
	関連する施策										
	刑法犯罪認知件数	件	234	200	106	130	114	211	185.1%	S	S
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	「交通事故の危険が少ないまち」は、前年度比プラス1.7ポイントとなったものの、現状値未達となった。また、「交通事故年間発生件数」は目標値は大きく下回っているものの、昨年度より20件増加した。交通事故の減少に向け、交通安全意識の高揚といったソフト面と交通安全施設の整備といったハード面、両面からのアプローチが必要である。 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」は、前年度比マイナス0.9ポイントとなったものの、期待値はクリアしている状況。また、「刑法犯罪認知件数」は、前年度比マイナス16件となり、こちらは期待値・目標値ともクリアしている。今後も警察等の関係機関と連携するなか、犯罪の抑止に努める必要がある。										

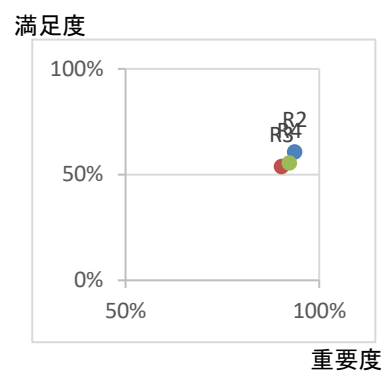
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性				
					コスト	成果	改善			

1	交通事故を減らすため交通安全活動を推進します	地域支援課	現未	A	維持	維持	①
2	交通安全施設の整備を進めます	建設課	B	A	拡充	拡充	①
3	犯罪のない明るい地域社会づくりを推進します	地域支援課	現未	A	維持	維持	①

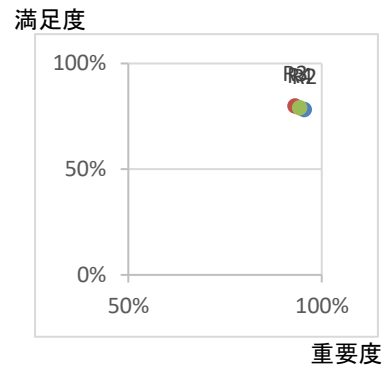
市民アンケート結果

総合評価

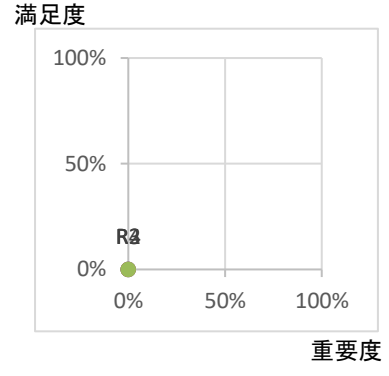
設問	1 「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	55.9%	66.0%	60.6%	53.7%	55.4%	そう思う(満足)	8.0%
						どちらかといえば思う	47.4%
			91.8%	81.4%	83.9%	どちらかといえば思わない	35.0%
重要度			93.7%	90.3%	92.3%	重要	55.0%
						どちらかといえば重要	37.3%
						重要ではない	6.1%



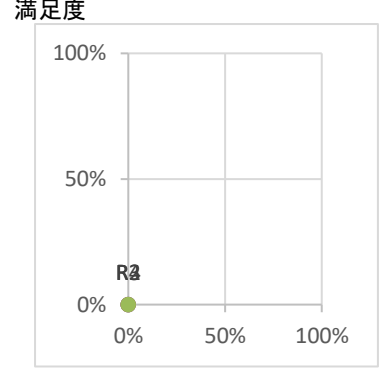
設問	2 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	71.6%	82.0%	78.2%	79.8%	78.9%	そう思う(満足)	15.7%
						どちらかといえば思う	63.2%
			95.4%	97.3%	96.2%	どちらかといえば思わない	17.4%
重要度			95.5%	93.1%	94.3%	重要	61.7%
						どちらかといえば重要	32.6%
						重要ではない	3.7%



設問	3 「交通安全や防犯に対する重要度は、市民の皆様が安心・安全な暮らしに直結するものだけに高く、9割を超える方が「重要」「どちらかといえば重要」と答えている。一方、満足度は十分な状況になく、特に「交通事故の危険が少ないまち」においては、55.4%に留まり、達成率は83.9%となっている。今後も引き続き、自治会や警察、交通安全協会等、関係機関の皆様と連携し、1件でも交通事故や刑法犯罪の発生を抑制するため、不断の取り組みが求められる。						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	4 「交通安全や防犯に対する重要度は、市民の皆様が安心・安全な暮らしに直結するものだけに高く、9割を超える方が「重要」「どちらかといえば重要」と答えている。一方、満足度は十分な状況になく、特に「交通事故の危険が少ないまち」においては、55.4%に留まり、達成率は83.9%となっている。今後も引き続き、自治会や警察、交通安全協会等、関係機関の皆様と連携し、1件でも交通事故や刑法犯罪の発生を抑制するため、不断の取り組みが求められる。						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

交通安全や防犯に対する重要度は、市民の皆様が安心・安全な暮らしに直結するものだけに高く、9割を超える方が「重要」「どちらかといえば重要」と答えている。一方、満足度は十分な状況になく、特に「交通事故の危険が少ないまち」においては、55.4%に留まり、達成率は83.9%となっている。今後も引き続き、自治会や警察、交通安全協会等、関係機関の皆様と連携し、1件でも交通事故や刑法犯罪の発生を抑制するため、不断の取り組みが求められる。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③
政策内容						
「交通事故や犯罪のないまちづくり」は、平穏な生活を営むうえで不可欠な要素であり、不断の取り組みが求められる。特に通学路における交通事故防止については、登下校指導の徹底を図るとともに、ドライバーに注意喚起を促す看板やグリーンベルトの設置、また、必要に応じた交通規制の実施など、学校・地域・警察等と連携するなか、安全対策を講じていく必要がある。防犯については、毎年自治会からの多くのご要望をいただく防犯灯の設置に関し、新設数の拡充を図る必要がある。加えて、より照度を上げるとともに、省エネルギー化・電気料の軽減に資する「既存の防犯灯のLED化」に対する助成制度の創設も検討する必要がある。また、振り込め詐欺など、高齢者を狙った犯罪もより巧妙化しており、一層の注意喚起に努めていく。 新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」となり、人の動きや経済活動がさらに活発になってくることが予想されるなか、交通事故や刑法犯罪のリスクが高まることも懸念される。ハード・ソフト両面の取り組みにより、事件・事故の発生を抑えていくため、関係機関と連携し、より一層の取り組みを進めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち								作成部署
R4	政策	3 消防力を高めるまちづくり								消防本部
		SDGsゴール	11	13	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	政策事業費(予算)	144,568	227,274	179,120	199,625	政策費増減額		82,706	△ 48,154	20,505
	政策費/全体費					比較		157%	79%	111%
	政策事業費(決算)	140,551	222,388	174,233		一般財源増減額		4,209	△ 9,617	30,516
	政策費/全体費				比較		104%	90%	134%	
	コスト分析と課題	政策事業費(決算)については、令和3年度より約4千8百万円の減額となっている。 令和4年度は、物価が高騰するなか、合併特例債や交付金、県の補助金等を有効に活用し、老朽化した救急自動車の更新や耐震性貯水槽2基の整備、新型コロナウイルス感染症対策のための感染防止資機材の整備を行った。 消防車等の緊急車両や資機材、耐震性貯水槽は、高額な費用が掛かるものであるが、火災等の災害に対応するためには必要不可欠なものであるため、整備する車両や資機材の耐久性や機能性も含めた仕様について、十分検討したうえで計画的に整備していく必要がある。								

指標評価	総合計画										行政評価
	3 消防力を高めるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合	%	59.5	70.0	66.4	68.9	65.7	66.5	98.8%	B	B
	関連する施策										
	消防団員の定数に対する充足率	%	87.6	95.0	84.1	83.5	77.7	92.5	84.0%	現未	C
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	市民アンケートの満足度が令和3年度よりも若干下がっている。これは、令和4年度に台風15号の大雨による被害が発生したことが影響していると考えられる。消防としては、災害現場活動の強化として自然災害への対応のための資機材の整備や訓練等、職員の技術、知識の更なる向上を図る必要がある。また、全国的に減少傾向にある消防団員は、本市においても厳しい状況が続いている。消防団は地域防災に必要な存在であることから、今後も活動環境の改善について検討するとともに、地域や企業に対し理解や協力を求めていく必要がある。										

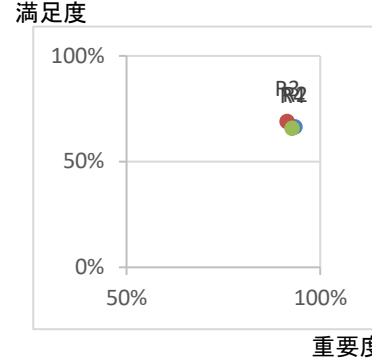
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 消防施設・設備・体制の充実強化を図ります	警防課、消防総務課、消防署	B		A	維持	維持	①		
	2 消防技術の向上を目指します	消防総務課	B		A	維持	維持	①		
3 消防団の防災力の維持・向上を図ります	消防総務課	現未		A	拡充	維持	①			

市民アンケート結果

総合評価

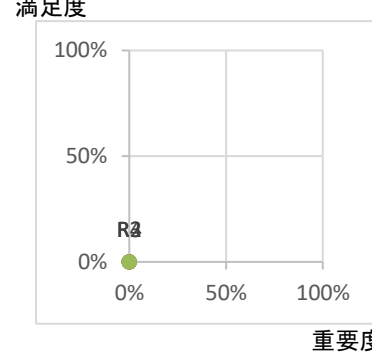
設問 1 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	59.5%	70.0%	66.4%	68.9%	65.7%	そう思う(満足) 8.5% どちらかといえば思う 57.2% どちらかといえば思わない 29.0% そう思わない(不満) 4.1%
重要度			93.5%	91.5%	92.8%	重要 57.3% どちらかといえば重要 35.5% 重要ではない 5.2%



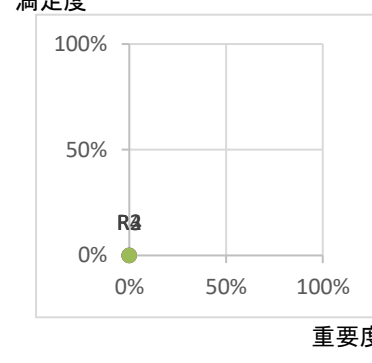
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)
重要度						重要 どちらかといえば重要 重要ではない



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)
重要度						重要 どちらかといえば重要 重要ではない



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)
重要度						重要 どちらかといえば重要 重要ではない



結果分析 台風等の大雨による対応について、市民の意識が高まっていると考える。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大も影響していると思われる。防災や救急などは、市民の安心・安全に直接的に関係することから求められるものも高いため、消防としては、大規模災害や火災、救急、救助事案への対応について、更なるレベル向上に努めなければならない。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	維持→	① 政策の進め方
災害から市民を守るという使命の下に、各種訓練や研修、派遣教育等による職員の資質向上及び消防施設の維持管理や緊急車両等の整備、消防指令センターの共同運用によって消防力の強化を図り、常に万全な体制を保つことが大切である。 また、地域防災の要として必要不可欠である消防団員の確保のため、活動環境の改善等について引き続き検討するとともに、消防団活動の広報を強化し、地域や企業に対して理解や協力を求め地域防災力の強化に繋げていかなければならない。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち													作成部署
R4	政策	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり													生活環境部
		SDGsゴール	3	6	7	8	11	12	13	14	15	17			
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)								
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度					
	政策事業費(予算)	1,086,066	1,088,483	1,131,332	1,128,558	政策費増減額		2,417	42,849	△ 2,774					
	政策費/全体費					比較		100%	104%	100%					
	政策事業費(決算)	1,081,661	1,078,365	1,121,283		一般財源増減額		△ 911	31,495	3,623					
	政策費/全体費				比較		100%	103%	100%						
	コスト分析と課題	新廃棄物処理施設の整備にかかる衛生施設組合への負担金が増加するなど、循環型社会・脱炭素社会の構築を図る上で、環境施策へのコスト増が見込まれている。環境施策について、市民等の脱炭素に向けた設備投資等への負担軽減策を講じるなど、2050年カーボンニュートラルを実現するための取組が必要である。													

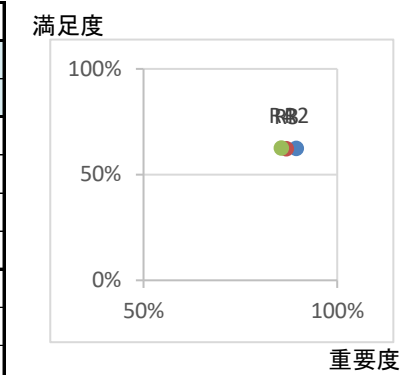
指標評価	総合計画										行政評価
	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合	%	56.8	67.0	62.4	62.1	62.5	63.6	98.3%	B	B
	関連する施策										
	「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合	%	44.7	60.0	51.5	52.2	55.5	54.9	101.1%	B	B
	関連する施策										
	水質環境基準の達成状況(BOD値)菊川:高田橋(2.0mg/l以内)	mg/l	1.2	2.0	1.2	1.2	1.4	1.7	123.8%	S	A
	関連する施策										
	水質環境基準の達成状況(BOD値)牛淵川:堂山橋(3.0mg/l以内)	mg/l	2.3	3.0	2.4	2.9	2.6	2.8	106.4%	S	B
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	令和4年度の実績値は、指標評価の指標1では、期待値・目標値を下回る結果となり、指標2では、期待値は上回ったものの目標値は下回る結果となった。環境保全・水質保全に関しては、市民の関心も高く、公共下水道や合併浄化槽の普及への理解も促進され、河川環境は良好に保たれている。課題としては、カーボンニュートラルに向けて、環境政策の重要性が高まっており、脱炭素社会を実現するために、再生可能エネルギーの普及促進や、更なるリサイクルの推進が急務となっている。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度			
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○
	1 地球温暖化対策・自然環境の保全を推進します	環境推進課、農林課	B		A	拡充	拡充	①		
	2 水質浄化・生活環境の改善を進めます	下水道課、環境推進課	B		A	維持	維持	①		
3 循環型社会の推進を図ります	環境推進課	現未		A	維持	拡充	③	拡充化○		
4 適正な汚水処理施設の管理・運営を進めます	下水道課	B		A	維持	維持	①			

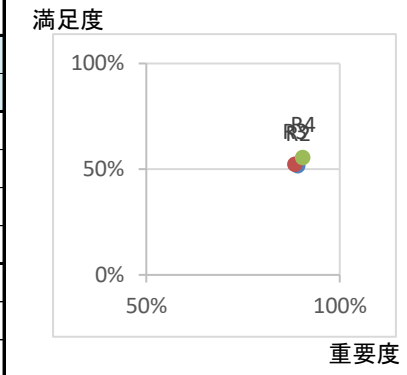
市民アンケート結果

総合評価

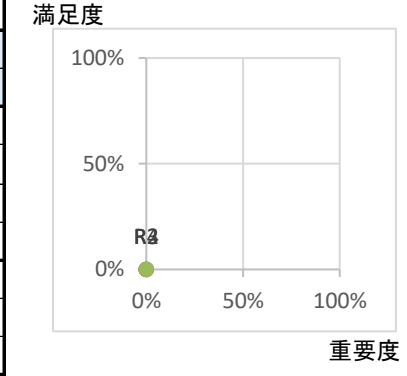
設問	1 「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	56.8%	67.0%	62.4%	62.1%	62.5%	そう思う(満足)	5.7%
						どちらかといえば思う	56.8%
			93.1%	92.7%	93.3%	どちらかといえば思わない	31.7%
重要度			89.5%	86.9%	85.6%	重要	32.4%
						どちらかといえば重要	53.2%
						重要ではない	11.9%



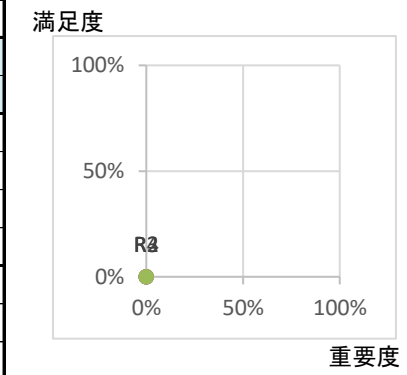
設問	2 「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	44.7%	60.0%	51.5%	52.2%	55.5%	そう思う(満足)	7.5%
						どちらかといえば思う	48.0%
			85.8%	87.0%	92.5%	どちらかといえば思わない	34.5%
重要度			89.2%	88.4%	90.5%	重要	45.3%
						どちらかといえば重要	45.2%
						重要ではない	7.4%



設問	3 「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	4 「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1・2について、満足度は前年度比でそれぞれ増加となっているが、設問1について重要度は前年度比で下降している。地球温暖化防止への全世界的な取り組みが進む中、本市でも環境保全・水質保全等に関する市民の意識は非常に高まっており、脱炭素社会の実現に向けて、市の環境施策の重要度は増大していく傾向にある。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
「豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり」を進めるためには、自然環境の保全、菊川の水質保全、循環型社会の構築、カーボンニュートラルに向けた取組を着実に進めるほか、市全体において市民・事業者等の意識変革と行動変容が重要である。市では、令和5年2月の「ゼロカーボンシティ」宣言を踏まえ、2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロの達成に向けて、環境施策の一層の推進を図る必要がある。今後も、地球温暖化対策のほか、循環型社会の構築など、製品プラスチック資源循環等ごみを資源化する取り組みを進め、更なるごみ減量化・資源化を推進していく。						



政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち								作成部署
R4	政策	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	9	11	15					
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	987,555	849,533	1,182,583	1,470,557	政策費増減額	△ 138,022	333,050	287,974	
	政策費/全体費					比較	86%	139%	124%	
	政策事業費(決算)	917,374	823,097	807,398		一般財源増減額	25,037	△ 105,507	16,877	
	政策費/全体費				比較	106%	77%	105%		
コスト分析と課題		道路、橋梁、公園などのインフラ整備と維持管理は、交通の利便性向上や安全・安心、憩いの場の提供といった、市民生活には欠かせないものであり、市の魅力向上にもつながるため、引き続き魅力あるまちづくりに繋げていく必要がある。								

指標評価	総合計画										行政評価
	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度			
	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合	%	59.4	64.0	59.6	59.3	58.7	62.5	94.0%	現未	B
	関連する施策										
	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合	%	43.5	59.0	42.5	43.1	41.8	53.8	77.6%	現未	E
	関連する施策										
	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合	%	56.6	62.0	62.5	59.0	55.7	60.2	92.5%	現未	B
	関連する施策										
	都市計画道路の整備率	%	63.5	65.5	66.0	66.0	66.4	64.8	102.5%	S	B
関連する施策											
コミュニティバス1日当りの利用者数	人/日	124	145	113	120	124	138	89.9%	B	C	
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	青葉通り嶺田線(市道井筒堂線)や西方高橋線(掛浜バイパス)、市道大須賀金谷線などの整備を進めている。広域的幹線道路としての役割が大きいため、早期完成を目指していく。また、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業を計画通りに進め早期に事業効果を発現させる必要がある。新型コロナウイルスの影響もあり、コミュニティバスの1日当りの利用者数は横ばいであるが、感染拡大防止を行い利用促進を図っていく。										

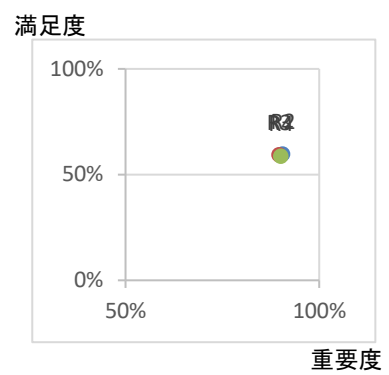
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	
	1 良好な住環境をつくります	都市計画課	S		A	維持	維持	①		
	2 幹線道路や生活道路を整備します	都市計画課、建設課	S		A	拡充	拡充	①		
	3 公園などの整備を進めます	都市計画課、農林課	B		A	拡充	拡充	①		
	4 交通事業者と連携して交通手段の確保に努めます	地域支援課	S	S	A	維持	維持	①		
5 橋梁や道路施設を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	建設課	A		A	拡充	拡充	①			
6 市営住宅を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	都市計画課	A		A	拡充	維持	①			

市民アンケート結果

総合評価

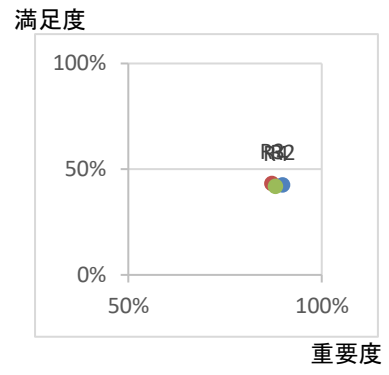
設問 1 「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	59.4%	64.0%	59.6%	59.3%	58.7%	10.1%
			59.3%	59.3%	58.7%	48.6%
			93.1%	92.7%	91.7%	31.0%
						9.5%
重要度			90.6%	89.7%	90.1%	43.9%
						46.2%
						7.6%



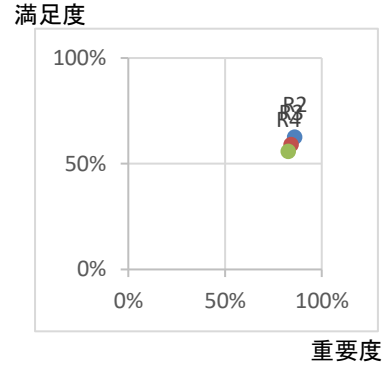
設問 2 「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	43.5%	59.0%	42.5%	43.1%	41.8%	5.8%
			72.0%	73.1%	70.8%	36.0%
						39.5%
						17.4%
重要度			89.9%	87.2%	88.1%	44.7%
						43.4%
						9.4%



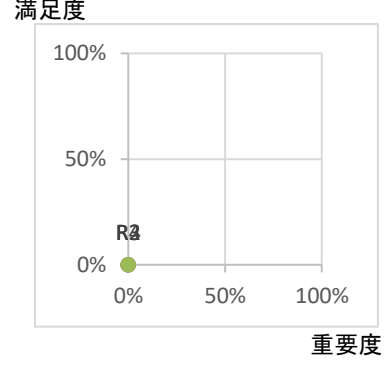
設問 3 「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度	56.6%	62.0%	62.5%	59.0%	55.7%	11.0%
			100.8%	95.2%	89.8%	44.7%
						34.2%
						9.1%
重要度			86.1%	84.2%	82.8%	29.7%
						53.1%
						14.7%



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)			
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度	
満足度						
重要度						



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において設問1から設問3まで開始時以下、昨年度以下となった。引き続き、各項目ともに上昇となるよう、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業を始めとした各種インフラ整備を進めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
本市を選んでもらうためにも、良好な住環境や道路・公園の整備は重要である。ポテンシャルの高いインフラ整備を計画的に進め、人口減少の抑制に繋げていく必要がある。引き続き、本市を選んでもらい、住みよい菊川市を目指し、駅北開発などの各事業を計画的に進めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち				作成部署
R4	政策	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり				生活環境部
		SDGsゴール	6			
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)	
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R2年度	R3年度
	政策事業費(予算)	9,145	60,516	116,369	8,618	51,371
	政策費/全体費				比較	662%
	政策事業費(決算)	9,145	60,512	116,307	一般財源増減額	△ 129
				比較	99%	
コスト分析と課題	上水道事業は、安定した水資源の確保と安全で良質な水質管理がされており、水道事業会計において適正に処理されている。					

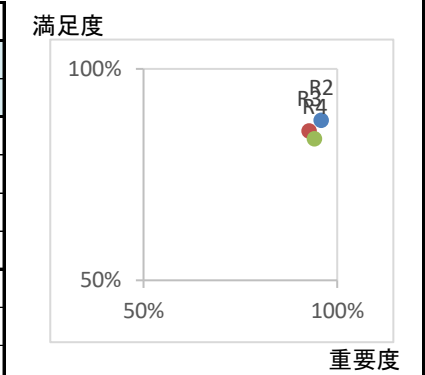
指標評価	総合計画										行政評価
	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合	%	83.0	88.0	87.8	85.3	83.4	86.3	96.6%	B	B
	関連する施策										
	上水道有収率	%	85.7	90.0	85.4	85.0	84.3	88.6	95.2%	現未	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	指標評価の指標1では、令和4年度の実績値は前年度比1.9ポイントの下降で、期待値・目標値をとともに下回る結果となった。自己水源が乏しく、大井川の水を受水している現状を多くの市民が理解する中で、安定的かつ安全に水道水を供給出来ていることから満足度は一定の水準を維持していると考えられる。課題としては、大切な水道水を無駄にしないよう、管路耐震化計画を策定し老朽管路の更新整備を計画的に進め、漏水防止と管路耐震化を促進させ、有収率を更に向上させる必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R6年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	
	1 安定した水資源の確保と総合的な水質管理体制の構築を図ります	水道課	B		A	維持	維持	①		
	2 管路の整備及び改良を進めます	水道課	B		A	維持	維持	①		
3 水道施設の管理及び整備を進めます	水道課	B		A	維持	維持	①			
4 安定財源の確保を図り、健全な事業経営を継続します	水道課、環境推進課	S		A	維持	維持	①			

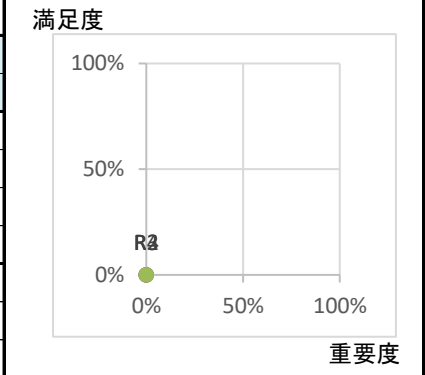
市民アンケート結果

総合評価

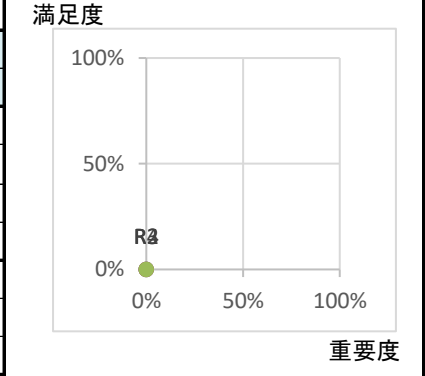
設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	83.0%	88.0%	87.8%	85.3%	83.4%	そう思う(満足)	25.3%
						どちらかといえば思う	58.1%
			99.8%	96.9%	94.8%	どちらかといえば思わない	11.7%
						そう思わない(不満)	3.7%
重要度			95.9%	92.8%	94.2%	重要	57.6%
						どちらかといえば重要	36.6%
						重要ではない	3.5%



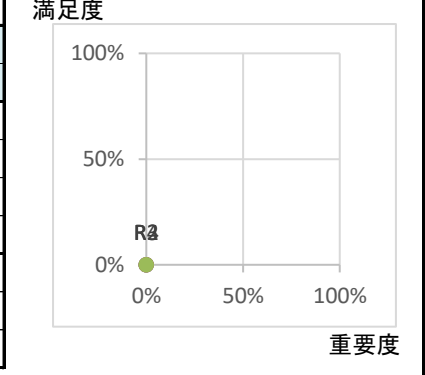
設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

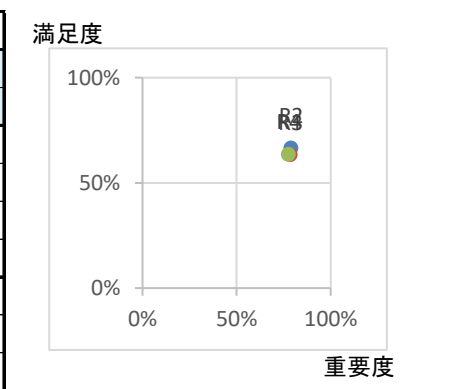
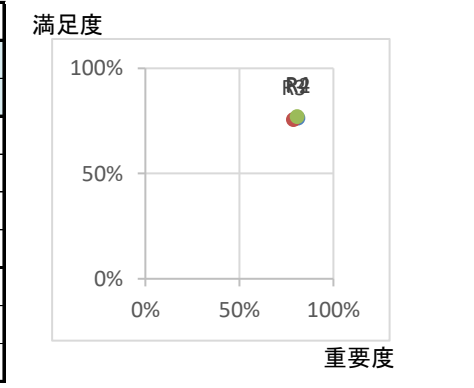
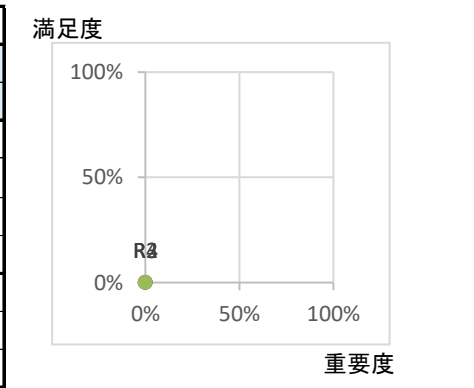
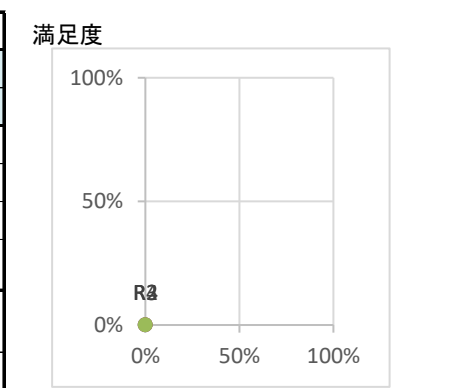


結果分析 満足度、達成率ともに前年度から下降したが、重要度は前年度から上昇している。数値は高い水準で推移しており、リニア新幹線工事などによる「大井川の水への関心」が要因の一つにあると考える。また、大井川広域水道企業団から安定的な受水を継続しており、市民の満足度も高い評価となっていると考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
「上水道が安全に安定して供給されるまちづくり」を進めるためには、水道料金収入をもって経営を行うことを基本としながら、安全安心な水道水を安定供給する役割を果たし、将来にわたり安定的に事業を継続していく必要がある。上水道企業会計として安定的な経営を継続し、今後も市民満足度に一定の評価を得られるよう、管路や配水設備の適切な維持管理に努めていく。人口減少に伴う水需要の減や、水道水供給施設の老朽化に伴う更新費用の増大など、直面する課題への対処方法の一つとして、広域的な協議・連携により業務等を効率的に進める必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち								作成部署	
R4	政策	1 市民と行政との協働によるまちづくり								総務部	
	SDGsゴール	16	17								
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	政策事業費(予算)	218,298	184,653	183,316	185,683	政策費増減額	△ 33,645	△ 1,337	2,367		
	政策費/全体費					比較	85%	99%	101%		
	政策事業費(決算)	206,921	176,687	174,936		一般財源増減額	8,494	8,692	2,216		
	政策費/全体費					比較	106%	106%	101%		
コスト分析と課題	<p>第2次菊川市総合計画の基本目標5「まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち」の実現に向け、市民と行政との協働によるまちづくりに取り組んだ。</p> <p>1%地域づくり活動交付金は、前年度に比べ、交付団体数及び交付確定額ともに増加した。一方で「庁舎東館周辺賑わい創出事業」に係る委託料が減少したことなどにより、コスト全体では減少となった。</p> <p>新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」に移行し、コミュニティ協議会や市民活動団体の活動が活発化することが想定されるなか、市民協働センターを連携しながら、地域づくりに資する活動をサポートしていく必要がある。</p>										
総合計画										行政評価	
1 市民と行政との協働によるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
	H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度				
「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の	%	59.4	69.0	66.5	63.3	63.5	65.8	96.5%	B	B	
関連する施策											
「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の	%	72.3	82.0	76.3	75.6	77.0	78.8	97.8%	B	B	
関連する施策											
市ホームページへのアクセス件数(年間)	件	290,335	315,000	731,392	812,847	703,015	306,778	229.2%	S	S	
関連する施策											
市民協働センターへの団体登録数	団体	0	90	75	80	88	60	146.7%	A	S	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	<p>「地域のコミュニティ活動が市のまちづくりに活かされているまち」「広報誌・市ホームページ・出前行政講座を通して市の情報が発信されているまち」については、ほぼ横ばいの実績値となっているが、期待値を下回っている状況である。</p> <p>「市ホームページへのアクセス件数」は、新型コロナウイルスに関する情報へのアクセスが落ち着いてきたことなどにより、前年度比で減少したものと考えられる。</p> <p>コロナ禍においても、「市民協働センターへの登録団体数」が増加したのは心強い点。アフターコロナ社会への本格的な移行を受け、市民協働センターと連携し、地域の活力を取り戻すための支援を行っていく。</p>										
関連施策											
評価分析	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価	R6の方向性			R6年度	拡大化△		
			成果1	成果2	判定評価	コスト	成果	改善			
	1 地域のために活動している市民や団体を支援します	地域支援課	S	A	維持	拡充	①				
	2 まちづくりを進めるために市政情報を共有します	営業戦略課、地域支援課、企画政策課	S	A	拡充	拡充	①				
3 地域文化の交流を通して人のつながりを地域の活性化に活かします	地域支援課	現未	A	維持	維持	①					

設問	1	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)									
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度							
満足度	59.3%	69.0%	66.5%	63.3%	63.5%	そう思う(満足)	7.7%					
						どちらかといえば思う	55.8%					
			96.4%	91.7%	92.0%	どちらかといえば思わない	30.7%					
						そう思わない(不満)	3.8%					
重要度			78.9%	78.6%	77.6%	重要	18.4%					
						どちらかといえば重要	59.2%					
						重要ではない	19.4%					
												
設問	2	「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)									
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度							
満足度	72.3%	82.0%	76.3%	75.6%	77.0%	そう思う(満足)	16.2%					
						どちらかといえば思う	60.8%					
			93.0%	92.2%	93.9%	どちらかといえば思わない	18.9%					
						そう思わない(不満)	2.9%					
重要度			81.2%	78.8%	80.9%	重要	23.2%					
						どちらかといえば重要	57.7%					
						重要ではない	16.5%					
												
設問												
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)									
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度							
満足度						そう思う(満足)						
						どちらかといえば思う						
						どちらかといえば思わない						
						そう思わない(不満)						
重要度						重要						
						どちらかといえば重要						
						重要ではない						
												
設問												
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)									
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度							
満足度						そう思う(満足)						
						どちらかといえば思う						
						どちらかといえば思わない						
						そう思わない(不満)						
重要度						重要						
						どちらかといえば重要						
						重要ではない						
												
結果分析	<p>「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」は、満足度が若干上昇した一方、重要度は微減となった。新型コロナウイルスの影響で、地域のコミュニティ活動が中止や縮小されることに慣れ、重要度が低下していくことが懸念される。「広報誌・市ホームページ・出前行政講座などを通して市の情報が発信されているまち」は、満足度・重要度ともに若干上昇した。今後も、ホームページやSNS、Dボタンといった、多チャンネルでの情報発信を進めていく。一方で、高齢者の方など、デジタル化した情報に触れにくい方々に対する発信方法も検証・検討していく必要がある。</p>											
総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)				R6年度の方向性		コスト	成果	改善		
								維持→	拡充↑	①	政策の進め方	
<p>新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に移行したことにより、祭典や納涼祭、地区センター祭りといった、地域の活力を取り戻す活動が再開されることが想定される。新しい生活様式を取り入れながら、持続可能な地域活動・市民活動が展開されるよう、市民協働センターとも連携するなか、コミュニティ協議会と市民活動団体とのマッチングを図るなど、市としてもサポートを進めていく。</p> <p>また、令和5年度からは、こども家庭庁が創設されるとともに、こども基本法が施行されるなど、子どもや若者の意見を施策に反映する仕組みづくりが求められる。そうしたなか、本市において、全国規模のイベント「わかものまちサミット2023」の開催が予定されており、これを機に、子どもや若者がまちづくりに参画する機運を高めていきたい。自治会は行政の大切なパートナーであり、その協力無くして、まちづくりは進められない。策定した「自治会の負担軽減に向けた取組方針」により、全庁を挙げて、自治会の負担軽減に取り組んでいく。</p> <p>市民に届く情報発信、菊川市の魅力が伝わる情報発信が求められている。これまで広報紙の充実やホームページのリニューアルを行うとともに、SNSを活用した即時性の高い情報発信にも取り組んできた。令和4年度から「営業戦略課」を設置するとともに、新たに委嘱した「営業戦略アドバイザー」からも効果的な情報発信等についてアドバイスを受けた。今後も新たな発想による「菊川市の売り込み」にチャレンジしていく。</p>												

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち								作成部署
R4	政策	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり								企画財政部
		SDGsゴール	11	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	政策事業費(予算)	193	6,959	10,463	17,753	政策費増減額		6,766	3,504	7,290
	政策費/全体費					比較		360%	150%	170%
	政策事業費(決算)	193	4,752	8,339		一般財源増減額		1,306	3,090	1,569
	政策費/全体費				比較		167%	322%	135%	
コスト分析と課題	「茶畑の中心で愛を叫ぶ」イベントの実施や移住就業支援事業費補助金や結婚新生活支援事業費補助金など事業費は増えているが、県市町村振興協会交付金や国の交付金を活用するなど財源確保に努めている。人口減少対策は重要課題であり、移住先として選ばれるための知名度向上や出会い・結婚支援、移住施策について、今後も国等の交付金を活用し、実施していく。									

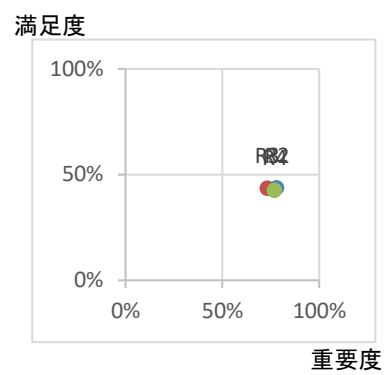
指標評価	総合計画										行政評価
	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「市内外に市の魅力が発信されているまち」と思う市民の割合	%	31.1	46.0	43.7	43.5	42.5	41.0	103.6%	B	B
	関連する施策										
	「菊川市に行ったことがある」「菊川市を知っている」と回答した人の割合	%	63.8	90.0以上	-	-	-	-	-	-	-
	関連する施策										
	新聞(静岡・中日)への掲載件数(年間)	件	380	410	510	442	343	400	85.8%	現未	C
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「市内外に市の魅力が発信されているまち」と思う市民の割合は前年度から微減したが、H27の現状値から10ポイント以上上昇している。市の魅力発信は、SNSによる情報発信ツールを増やすとともに、まちの話題などの発信回数も増加している。新聞への掲載件数については報道機関への情報提供件数は増加しているが、新聞掲載数は減少していることから、報道機関への適切な時期の情報提供、情報提供内容の工夫など改善していく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R6年度	
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 知名度向上に向けて情報を発信します	営業戦略課	S		A	維持	拡充	①		拡充化○
	2 移住・定住に関する情報を積極的に発信します	営業戦略課、企画政策課	S		A	維持	拡充	①		拡充化○

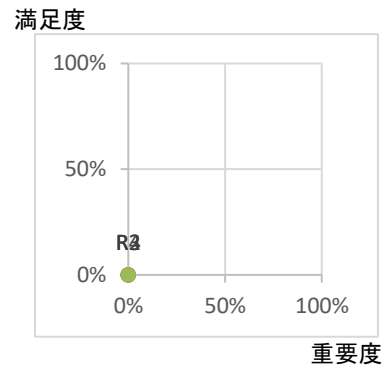
市民アンケート結果

総合評価

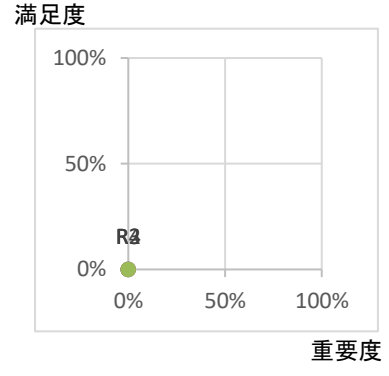
設問	1 「市内外に市の魅力が発信されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度	31.0%	46.0%	43.7%	43.5%	42.5%	そう思う(満足)	4.2%
						どちらかといえば思う	38.3%
			95.0%	94.6%	92.4%	どちらかといえば思わない	44.3%
						そう思わない(不満)	11.9%
重要度			78.1%	73.2%	77.0%	重要	22.6%
						どちらかといえば重要	54.4%
						重要ではない	20.6%



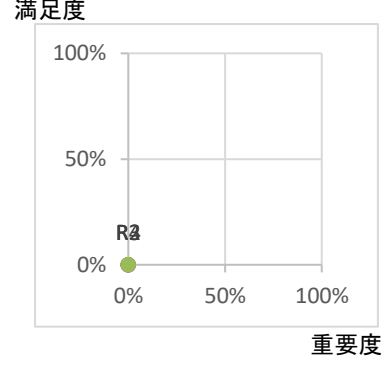
設問	2 「市内外に市の魅力が発信されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	3 「市内外に市の魅力が発信されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	4 「市内外に市の魅力が発信されているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度は令和2年度から上昇しているものの、重要度は70%台で推移しており乖離がある。自らが住むまちの認知度向上、シビックプライドを醸成するために市の魅力のPRが重要だと思うことや、日々の話題の発信・提供を求めている市民が多いと考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
令和4年度から営業戦略課を設置し、更に営業戦略アドバイザーとの連携によるマーケティング、プロモーションが強化がされ、「茶畑の中心で愛を叫ぶ」や「きくがわ応援大使」事業など拡充されてきている。これらの実施状況、効果を考え、さらに令和5年度以降の市の魅力や菊川茶のブランド力の向上など、魅力の発信、移住・定住の推進につなげていく必要がある。						

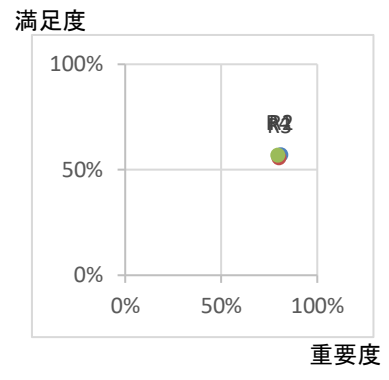
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署	
R4	政策	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり										総務部	
		SDGsゴール											
コスト評価	事業費と割合(千円)										予算額比較(千円)		
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	政策事業費(予算)	10,248	9,065	10,361	12,519	政策費増減額	△ 1,183	1,296	2,158				
	政策費/全体費					比較	88%	114%	121%				
	政策事業費(決算)	9,986	8,696	10,186		一般財源増減額	77	320	130				
	政策費/全体費				比較	101%	105%	102%					
コスト分析と課題													
令和3年度に策定した「第4次菊川市男女共同参画プラン」及び「第4次菊川市多文化共生推進行動指針」に基づき、各種施策を行った。コストが増加した要因としては、外国人住民の方が安心して暮らすことを目的とした「多言語版生活オリエンテーション動画」を作成したことなどによるものである。 男女共同参画・多文化共生・人権擁護とも、その推進に向けては、市民の皆さまの意識を醸成することが不可欠であるため、より訴求対象に届く啓発を行っていく必要がある。													
総合計画												行政評価	
指標評価	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価		
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度				
	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」と思う市民の割合	%	48.6	64.0	57.1	55.6	56.9	58.9	96.7%	B	B		
	関連する施策												
	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」と思う市民の割合	%	57.1	67.0	64.7	64.7	65.9	63.7	103.5%	B	B		
	関連する施策												
	市協議会、委員会などの女性登用率	%	26.5	33.3	26.4	27.4	28.6	31.0	92.2%	B	B		
	関連する施策												
	多文化共生サポーター数	人	0	10	21	21	29	7	414.3%	S	S		
	関連する施策												
関連する施策													
指標分析と課題													
「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」は、前年度比1.3ポイント上昇したものの、期待値に対する達成率が96.7%に留まり、やや伸び悩んでいる。 「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」は、前年度比1.2ポイント上昇し、達成度も100%を超えており、堅調に推移している。 また、市協議会、委員会などへの女性登用率は28.6%となり、前年度比1.2ポイント上昇したものの、分野によっては依然として0%の委員会等もあり、より広範な分野で女性の視点を生かす取り組みが求められる。 多文化共生サポーター数は、前年度比プラス8人と、大きな伸びを見せた。													
関連施策													
評価分析	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R6年度 拡充化○ 縮減化△						
			成果1	成果2	判定評価	コスト	成果	改善					
	1 男女が平等な立場で参画できる社会づくりに取り組みます	地域支援課	B		A	維持	維持	①					
	2 外国人が暮らしやすい環境を整備します	地域支援課	S		A	維持	維持	①					
3 人権擁護活動を推進します	市民課	B		A	維持	維持	①						

市民アンケート結果

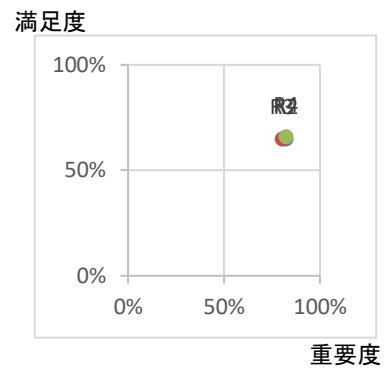
設問 1 「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度	48.5%	64.0%	57.1%	55.6%	56.9%	そう思う(満足)	4.7%
						どちらかといえば思う	52.2%
			89.2%	86.9%	88.9%	どちらかといえば思わない	35.7%
						そう思わない(不満)	5.0%
重要度			81.1%	80.2%	79.5%	重要	23.6%
						どちらかといえば重要	55.9%
						重要ではない	17.8%



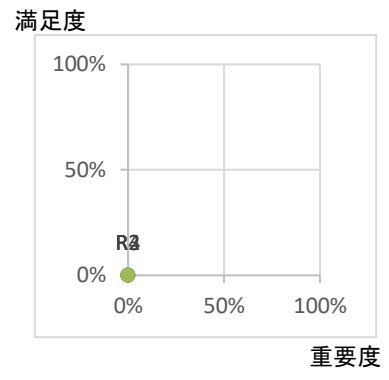
設問 2 「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度	57.1%	67.0%	64.7%	64.7%	65.9%	そう思う(満足)	7.6%
						どちらかといえば思う	58.3%
			96.6%	96.6%	98.4%	どちらかといえば思わない	27.9%
						そう思わない(不満)	4.2%
重要度			82.3%	80.4%	82.3%	重要	23.1%
						どちらかといえば重要	59.2%
						重要ではない	15.0%



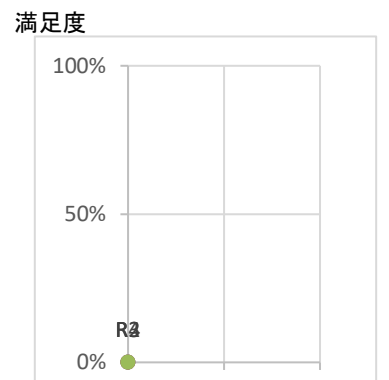
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」・「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」の設問において、「重要でない」と答えた人の割合が、それぞれ17.8%・15.0%残っていることが、この問題の難しさを物語っている。一方で、満足度は横ばいの状況が続いており、全庁を挙げて「第4次菊川市男女共同参画プラン」及び「第4次菊川市多文化共生推進行動指針」に掲げた事業を推進していくことが求められる。満足度・重要度ともに上昇させるため、引き続き、市民の皆様の意識に訴える啓発活動に取り組んでいく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方

男女共同参画については、アンコンシャス・バイアス＝「固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定概念・無意識の思い込み」を低減させていくことが、これまでも大きな課題であり、男女共同参画社会の実現に向けたポイントとなっている。また、LGBTQやリプロダクティブ・ヘルス/ライツ＝「性と生殖に関する健康と権利」といった、比較的新しい言葉・考え方に対する理解を深める必要性についても「第4次男女共同参画プラン」に掲げられ、若年層への働きかけの重要性が謳われている。今後は、SDGsの視点も踏まえ、「第4次男女共同参画プラン」に掲げた施策を着実に推進していく。  
市の人口における外国人比率は、リーマンショックにより一時大きく減少したものの、8.0%前後で推移しており、依然として県下市町トップの比率となっている。  
令和2年度に実施した外国人住民の方へのアンケートでは、「菊川市は住みやすい」と答えた方が76.4%で、5年前と比べ、12.3ポイント上昇している。これまで取り組んできた施策が一定の成果につながったと考えられる。  
今後は、「第4次多文化共生推進行動指針」に基づき、コミュニケーション支援や生活支援、多文化共生の地域づくりなどに取り組んでいく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち										作成部署
R4	政策	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり										企画財政部
		SDGsゴール	8	10	11	16	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	政策事業費(予算)	1,292,792	823,209	1,400,270	605,314	政策費増減額	△ 469,583	577,061	△ 794,956			
	政策費/全体費					比較	64%	170%	43%			
	政策事業費(決算)	1,270,326	795,559	1,383,433		一般財源増減額	234,217	△ 175,987	△ 52,673			
	政策費/全体費				比較	145%	77%	91%				
	コスト分析と課題	事業費の大きな伸びは、合併特例債を原資とする地域振興等基金の積み立てが大きく影響している。この他、マイナポイントの申込支援業務委託やオンライン申請への対応などが増加している。令和5年度以降は地域振興等基金の積立はないが、令和7年度までの自治体情報化システムの標準化・共通化などICT施策関連事業費の増加が見込まれる。										

指標評価	総合計画										行政評価
	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度	R4年度		
	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思ふ市民の割合	%	42.7	58.0	53.0	53.0	52.5	52.9	99.2%	B	B
	関連する施策										
	将来負担比率	%	49.3	40.0	9.9	算定なし	未公表	43.1	-	-	-
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思ふ市民の割合が、引き続き50%を超えている。将来負担比率は、令和2年度は9.9%だったが、令和3年度は「算定なし」となった。令和4年度は今後算定されるが、大きく悪化する要因はなく、財政状況は「健全」とされる範囲内にある。今後も、市民の皆さまに市が進めるまちづくりや財政状況等をわかりやすく伝えることが必要となるため、広報紙やホームページ、SNSを活用していく。										

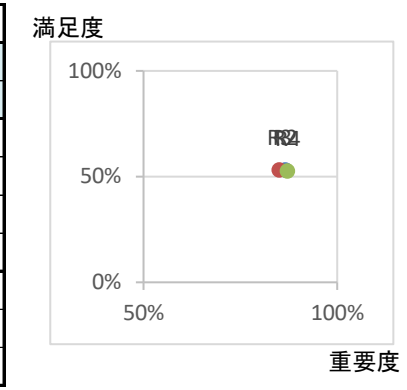
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R6年度 拡充化○ 縮減化△	
			成果1	成果2	判定評価	R6の方向性	コスト	成果		改善
	1 市役所の組織力を高めます	総務課	S		A	拡充	拡充	①		
	2 ICT(情報通信技術)を活用し効率的な行政運営をします	企画政策課、市民課	S		A	拡充	拡充	①	拡充化○	
	3 健全で安定した行財政運営を構築します	財政課、企画政策課、小笠市民課、税務課	現未		A	拡充	拡充	①		
4 新公共経営と共創による行政運営を推進します	財政課	現未		A	拡充	拡充	①			
5 他市町との広域連携を推進します	企画政策課	C		A	維持	維持	①			

市民アンケート結果

総合評価

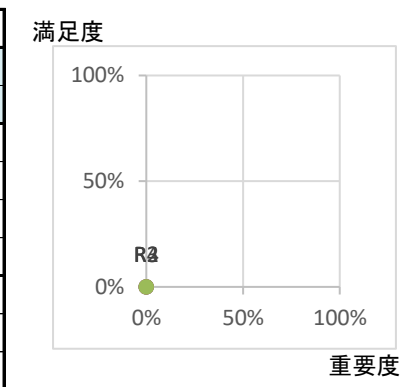
設問 1 「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度	42.7%	58.0%	53.0%	53.0%	52.5%	そう思う(満足)	3.0%
			91.4%	91.4%	90.5%	どちらかといえば思う	49.5%
						どちらかといえば思わない	36.3%
重要度			86.6%	85.1%	87.2%	重要	36.0%
						どちらかといえば重要	51.2%
						重要ではない	10.0%



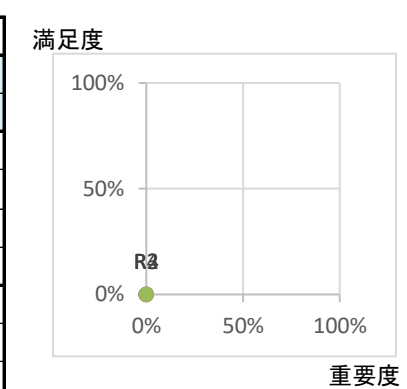
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



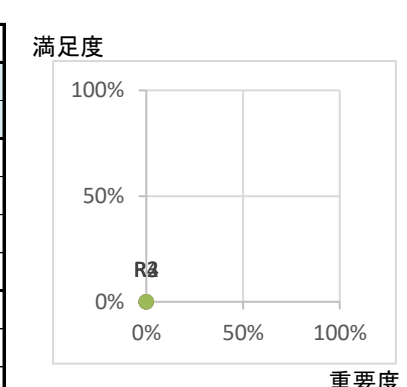
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R8年度	R2年度	R3年度	R4年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度52.5%は、上昇した令和2年度、令和3年度と同程度で、目標値58.0%に対して90.5%となった。一方、重要度は87.2%と高く、将来の少子高齢・人口減少社会を見据えれば、デジタル化、行財政改革、民間活力の活用などによる効率的・効果的な行財政運営を進めていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R6年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
<p>「未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり」を進めるためには、職員ひとり一人の生産性を高めるとともに、職員が常にコスト意識を持ち、行政経営の視点に立って業務に当たることが求められる。令和2年度決算分から活用が始まった政策・施策・事業単位でPDCAサイクルを回す「行政経営システム」により、効率的・効果的な行財政運営を進めていく必要がある。</p> <p>また、限られた職員で効率よく業務を進めるためには、AIやRPAの活用などデジタル化など「自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)」の推進も不可欠となる。デジタル化には相応のコストが必要となるが、それが働き方改革(テレワークの推進や時間外勤務の削減、休暇取得の促進等)にもつながり、市役所の組織力向上や経常経費の削減につなげていくことが求められている。</p>						